

基本計画書

基本計画書										
事項		記入欄								備考
計画の区分		学部の設置								
フリガナ 設置者	ガッコウホウジンブンキョウガクイン 学校法人文京学院									
フリガナ 大学の名称	ブンキョウガクインダイガク 文京学院大学									
大学本部の位置	東京都文京区向丘1丁目19番1号									
大学の目的	文京学院大学は、「自立と共生」の建学の精神に則り、教育基本法ならびに学校教育法に基づき、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、社会の発展に寄与するところ豊かな人間の育成を目的とする。									
新設学部等の目的	建学の精神「自立と共生」の下、「人と人、人と地域、人と自然が共生する社会創造」に寄与できる人材の養成を目標とする。その人材養成のために提供する教育・研究の方向性は、「ヘルスケア」「地域づくり」「異文化間コミュニケーション」各ドメインの社会課題の理解・把握、その解決におけるデータサイエンス・AIの活用が主眼となる。その教育・研究の推進においては、地方自治体やIT・DX企業などの協力を得て、社会課題に対して様々なステークホルダーとのプロジェクトの立案やマネジメント経験を学生に提供し、その成果をコミュニティに提案することで社会に還元する。									
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地	
		年	人	年次人	人	学士（ヒューマン・データサイエンス）	工学関係	年月第年次	令和8年4月第1年次	
ヒューマン・データサイエンス学部 ヒューマン・データサイエンス学科 計	4	110	-	440						
ヒューマン・データサイエンス学部 ヒューマン・データサイエンス学科 計	110	-	440							
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、 名称の変更等)	該当なし									
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数					卒業要件単位数			
		講義	演習	実験・実習	計					
ヒューマン・データサイエンス学部 ヒューマン・データサイエンス学科	84科目	30科目	2科目	116科目	124単位					
学部等の名称		基幹教員					助手	基幹教員以外の教員 (助手を除く)		
		教授	准教授	講師	助教	計				
新設	ヒューマン・データサイエンス学部 ヒューマン・データサイエンス学科	8人 (8)	6人 (6)	0人 (0)	3人 (3)	17人 (17)	0人 (0)	38人 (38)	大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数 12人	
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	8人 (8)	6人 (6)	0人 (0)	3人 (3)	17人 (17)				
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0人 (0)	0人 (0)	0人 (0)	0人 (0)	0人 (0)				
	小計（a～b）	8人 (8)	6人 (6)	0人 (0)	3人 (3)	17人 (17)				
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0人 (0)	0人 (0)	0人 (0)	0人 (0)	0人 (0)				
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a, b又はcに該当する者を除く）	0人 (0)	0人 (0)	0人 (0)	0人 (0)	0人 (0)				
分	計（a～d）	8人 (8)	6人 (6)	0人 (0)	3人 (3)	17人 (17)	0人 (0)	— (—)		
計		8人 (8)	6人 (6)	0人 (0)	3人 (3)	17人 (17)	0人 (0)	— (—)		

既	外国語学部 英語コミュニケーション学科	12人 (12)	12人 (12)	0人 (0)	1人 (1)	25人 (25)	0人 (0)	91人 (91)	
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	12 (12)	12 (12)	0 (0)	1 (1)	25 (25)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 9人
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの (aに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計 (a ~ b)	12 (12)	12 (12)	0 (0)	1 (1)	25 (25)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの (a又はbに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの (a, b又はcに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計 (a ~ d)	12 (12)	12 (12)	0 (0)	1 (1)	25 (25)			
	経営学部 経営コミュニケーション学科	8 (8)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	11 (0)	0 (0)	115 (123)	
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	8 (8)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	11 (0)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 8人
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの (aに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計 (a ~ b)	8 (0)	3 (0)	0 (0)	0 (0)	11 (11)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの (a又はbに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの (a, b又はcに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計 (a ~ d)	8 (8)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	11 (0)			
	経営学部 マーケティング・デザイン学科	6 (6)	3 (3)	0 (0)	3 (3)	12 (12)	0 (0)	110 (110)	
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	6 (6)	3 (3)	0 (0)	3 (3)	12 (12)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 8人
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの (aに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計 (a ~ b)	6 (6)	3 (3)	0 (0)	3 (3)	12 (12)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの (a又はbに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの (a, b又はcに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計 (a ~ d)	6 (6)	3 (3)	0 (0)	3 (3)	12 (12)			

設 置	人間学部 児童発達学科	8 (8)	7 (7)	0 (0)	1 (1)	16 (16)	0 (0)	50 (50)	大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 8人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	8 (8)	7 (7)	0 (0)	1 (1)	16 (16)			
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの (aに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計 (a ~ b)	8 (8)	7 (7)	0 (0)	1 (1)	16 (16)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの (a又はbに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの (a, b又はcに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計 (a ~ d)	8 (8)	7 (7)	0 (0)	1 (1)	16 (16)			
	人間学部 人間福祉学科	8 (8)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	15 (15)	1 (1)	46 (46)	
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	8 (8)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	15 (15)			
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの (aに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計 (a ~ b)	8 (8)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	15 (15)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの (a又はbに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの (a, b又はcに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計 (a ~ d)	8 (8)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	15 (15)			
	人間学部 心理学科	9 (9)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	2 (2)	42 (42)	大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 8人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	9 (9)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	12 (12)			
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの (aに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計 (a ~ b)	9 (9)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	12 (12)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの (a又はbに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの (a, b又はcに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計 (a ~ d)	9 (9)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	12 (12)			

保健医療技術学部 理学療法学科	4 (4)	5 (5)	0 (0)	11 (11)	20 (20)	0 (0)	79 (79)
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	4 (4)	5 (5)	0 (0)	11 (11)	20 (20)		
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
小計（a～b）	4 (4)	5 (5)	0 (0)	11 (11)	20 (20)		
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
計（a～d）	4 (4)	5 (5)	0 (0)	11 (11)	20 (20)		
保健医療技術学部 作業療法学科	5 (5)	3 (3)	0 (0)	2 (2)	10 (10)	3 (3)	61 (61)
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	5 (5)	3 (3)	0 (0)	2 (2)	10 (10)		
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
小計（a～b）	5 (5)	3 (3)	0 (0)	2 (2)	10 (10)		
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
計（a～d）	5 (5)	3 (3)	0 (0)	2 (2)	10 (10)		
保健医療技術学部 臨床検査学科	6 (6)	4 (4)	0 (0)	3 (3)	13 (13)	3 (3)	80 (80)
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	6 (6)	4 (4)	0 (0)	3 (3)	13 (13)		
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
小計（a～b）	6 (6)	4 (4)	0 (0)	3 (3)	13 (13)		
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
計（a～d）	6 (6)	4 (4)	0 (0)	3 (3)	13 (13)		

大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 6人

大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 6人

大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 6人

保健医療技術学部 看護学科		6 (6)	10 (10)	0 (0)	6 (6)	22 (22)	1 (1)	56 (56)
分	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	6 (6)	10 (10)	0 (0)	6 (6)	22 (22)		
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	小計（a～b）	6 (6)	10 (10)	0 (0)	6 (6)	22 (22)		
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	計（a～d）	6 (6)	10 (10)	0 (0)	6 (6)	22 (22)		
	計	72 (72)	57 (57)	0 (0)	27 (27)	156 (156)	10 (10)	— (—)
合 計		80 (80)	63 (63)	0 (0)	30 (30)	173 (173)	10 (10)	— (—)

大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 9人

職種		専属		その他		計		大学全体						
事務職員		117人 (117)		65人 (65)		182人 (182)								
技術職員		22 (22)		23 (23)		45 (45)								
図書館職員		5 (5)		2 (2)		7 (7)								
その他他の職員		2 (2)		0 (0)		2 (2)								
指導補助者		0 (0)		0 (0)		0 (0)								
計		146 (146)		90 (90)		236 (236)								
校地等	区分		専用		共用		共用する他の学校等の専用							
	校舎敷地		94,417.64m ²		0.00m ²		0.00m ²		94,417.64m ²					
	その他		4,709.25m ²		0.00m ²		0.00m ²		4,709.25m ²					
	合計		99,126.89m ²		0.00m ²		0.00m ²		99,126.89m ²					
校舎			専用		共用		共用する他の学校等の専用		計					
			63,921.87m ² (63,921.87m ²)		0.00m ² (0.00m ²)		0.00m ² (0.00m ²)		63,921.87m ² (63,921.87m ²)					
教室・教員研究室			教室		176室		教員研究室		15室					
図書・設備	新設学部等の名称		図書 〔うち外国書〕 冊		学術雑誌 〔うち外国書〕 種		機械・器具 点		学部等単位での特定不能なため、大学全体の数					
	ヒューマン・データ サイエンス学部		407,597〔50,100〕 (390,037〔49,980〕)		1,195〔105〕 (955〔105〕)		電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種							
	計		407,597〔50,100〕 (390,037〔49,980〕)		1,195〔105〕 (955〔105〕)		47,792〔45,771〕 (47,792〔45,771〕)		47,322〔45,670〕 (47,322〔45,670〕)	10,264 (10,264)	3,096 (3,096)			
	スポーツ施設等		スポーツ施設		講堂		厚生補導施設						大学全体	
			3,139.25m ²		1,949.41m ²		3,435.30m ²							
経費の見積り及び維持方法の概要	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	大学全体					
		教員1人当たり研究費等	500千円	500千円	500千円	500千円	-千円	-千円						
		共同研究費等	1,530千円	1,530千円	1,530千円	1,530千円	-千円	-千円						
		図書購入費	5,729千円	3,575千円	3,575千円	3,575千円	-千円	-千円						
	学生1人当たり納付金	65,000千円	0千円	0千円	0千円	0千円	-千円	-千円						
		第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次							
		1,440千円	1,354千円	1,360千円	1,366千円	-千円	-千円							
	学生納付金以外の維持方法の概要													
私立大学等経常経費補助金、資産運用収入、雑収入 等														

既設大学等の状況	大学等の名称	文京学院大学								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所在地	
外国語学部	年	人	年次人	人			倍			
英語コミュニケーション学科	4	180	—	960	学士(コミュニケーション)	0.67 《0.65》			東京都文京区向丘1丁目19番1号	※令和7年度入学定員減(80名)
経営学部							1.03 《1.00》			
経営コミュニケーション学科	4	130	—	650	学士(経営学)	1.00 《0.95》	平成3年度	東京都文京区向丘1丁目19番1号	※令和5年度入学定員減(130名)	
マーケティング・デザイン学科	4	130	—	390	学士(経営学)	1.13	令和5年度	東京都文京区向丘1丁目19番1号	※令和5年度新設	
人間学部							0.71 《0.69》			
コミュニケーション社会学科	4	—	—	—	学士(人間学)	0.74 《0.73》	平成15年度	(1~2年次)埼玉県ふじみ野市亀久保1196番地 (3~4年次)東京都文京区向丘1丁目19番1号	※令和7年度より学生募集停止	
児童発達学科	4	130	—	520	学士(教育学)	0.60 《0.57》	平成15年度	埼玉県ふじみ野市 亀久保1196番地		
人間福祉学科	4	110	—	440	学士(社会福祉学)	0.56 《0.54》	平成15年度	埼玉県ふじみ野市 亀久保1196番地 福祉マネジメントコースのみ (1~2年次) 埼玉県ふじみ野市 亀久保1196番地 (3~4年次) 東京都文京区向丘 1丁目19番1号		
心理学科	4	100	—	400	学士(心理学)	1.01 《0.98》	平成15年度	埼玉県ふじみ野市 亀久保1196番地		
保健医療技術学部							0.98 《0.90》			
理学療法学科	4	80	—	320	学士(理学療法学)	1.02 《1.00》	平成18年度	埼玉県ふじみ野市 亀久保1196番地		
作業療法学科	4	40	—	160	学士(作業療法学)	0.78 《0.71》	平成18年度	埼玉県ふじみ野市 亀久保1196番地		
臨床検査学科	4	80	—	320	学士(臨床検査学)	0.80 《0.70》	平成18年度	(1年次)埼玉県ふじみ野市 亀久保1196番地 (2~4年次)東京都文京区向丘1丁目19番1号		
看護学科	4	100	—	400	学士(看護学)	1.18 《1.04》	平成26年度	(1年次)埼玉県ふじみ野市 亀久保1196番地 (2~4年次)東京都文京区向丘1丁目19番1号		
大学院										
外国語学研究科										
英語コミュニケーション専攻	2	10	—	20	修士(英語コミュニケーション)	0.35	平成17年度	東京都文京区向丘1丁目19番1号		
経営学研究科										
経営学専攻	2	30	—	60	修士(経営学)	0.71	平成9年度	東京都文京区向丘1丁目19番1号		

人間学研究科									
人間学専攻	2	10	—	20	修士(人間学)	0.45	平成11年度	埼玉県ふじみ野市 亀久保1196番地	
心理学専攻	2	20	—	40	修士(心理学)	0.65	平成13年度	埼玉県ふじみ野市 亀久保1196番地	
保健医療科学研究科									
保健医療科学専攻	2	20	—	40	修士(保健医療科学)	0.87	平成22年度	東京都文京区向丘1丁目19番1号	
看護学研究科									
看護学専攻	2	10	—	20	修士(看護学)	0.40	令和3年度	東京都文京区向丘1丁目19番1号	
専門職大学院									
福祉医療マネジメント研究科									
福祉医療マネジメント専攻	2	50	—	100	福祉医療マネジメント修士(専門職)	0.34	令和6年度	東京都文京区向丘1丁目19番1号	
附属施設の概要	該当なし								

教育課程等の概要															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
大 科 学 目 特 別	人間共生論	1前		2			○			1	1				8 オムニバス、 メディア、 ※演習
	小計（1科目）	—	—	2	0	0	—	—	—	1	1				8 —
教 養 科 目	情報リテラシーI	1前		1			○								3 ※講義
	情報リテラシーII	1後		1			○								3 ※講義
	英語I	1前		1			○								2 2
	英語II	1後		1			○								2 2
	日本国憲法	1・2・3・4前		2			○								1 1
	法学	1・2・3・4後		2			○								1 1
	哲学	1・2・3・4前		2			○								1 1
	ジェンダー論	1・2・3・4前		2			○								1 1
	経済学	1・2・3・4後		2			○								1 1
	フィットネス科学	1・2・3・4前		2			○								1 1
	フィットネス科学演習I	2・3・4前		2			○								1 1
	フィットネス科学演習II	2・3・4後		2			○								1 1
	ジェンダード・イノベーションと地域社会	2・3・4前		2			○								※演習
	パーソナルファイナンス	2・3・4後		2			○								※演習
	社会調査法I	1前		2			○								※演習
	社会調査法II	1後		2			○								※演習
	社会統計学I	2前		2			○								※演習
	社会統計学II	2後		2			○								※演習
	量的データ分析	3前		2			○								※演習
	質的データ分析	3前		2			○								※演習
	社会調査法実践（質的）I	3前		2			○								※演習
	社会調査法実践（質的）II	3後		2			○								※演習
	社会調査法実践（量的）I	3前		2			○								※演習
	社会調査法実践（量的）II	3後		2			○								※演習
	小計（24科目）	—	—	4	40	0	—	—	—	1	2	1	11	—	
タ キ シ ン シ ア ブ ・ 科 目	キャリアデザインI	1前	○	2			○				1				1 ※演習
	キャリアデザインII	1後	○	2			○				1				1 ※演習
	インターンシップ	2・3通		4			○		○		1				集中※講義
	キャリア特講I	2・3前		2			○								1 1
	キャリア特講II	3・4前		2			○								1 1
	小計（5科目）	—	—	4	8	0	—	—	—	1			2	—	
学 科 目 基 礎	初年次演習I	1前		2			○		○	3	3	2			※講義
	初年次演習II	1後		2			○		○	3	3	2			※講義
	データサイエンスへのいざない	1前		2			○								オムニバス ※演習
	小計（3科目）	—	—	6	0	0	—	—	—	3	3	2	2	—	
デ ー タ サ イ エ ン ス 科 目	プログラミングI	1前	○	4			○		○	1					2 ※講義
	プログラミングII	1後	○	2			○		○	1					2 ※講義
	プログラミングIII	2前	○	2			○		○	1	1				1 ※講義
	ドメインとデータサイエンス	1前	○	2			○		○	2					オムニバス・ 共同（一部） ※演習
	シミュレーション論	2・3前		2			○		○		1	1			1 ※演習
	ヒューマンデータ可視化法	2・3前		2			○		○						1 ※演習
	音声解析概論	2・3後		2			○		○						1 ※演習
	画像解析概論	2・3後		2			○		○						1 ※演習
	自然言語解析概論	2・3後		2			○		○						1 ※演習
	時空間データ分析	2・3後		2			○		○						1 ※演習
	IoTとヒューマンデータ	2・3後		2			○		○						1 ※演習
	IoTとGIS	2・3後		2			○		○						1 ※演習
	データマイニング概論	3前	○	2			○		○	2					オムニバス ※演習
	トピックモデル概論	3・4前		2			○		○	1					1 ※演習
	データサイエンス特講I	1・2前		2			○		○	1					1 ※演習
	データサイエンス特講II	2・3前		2			○		○						1 ※演習
	小計（16科目）	—	—	12	22	0	—	—	—	4	2			6	—

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員
データサイエンス科目	エンジニアリング	ヒューマンデータエンジニアリング演習I ヒューマンデータエンジニアリング演習II データベースシステム概論 システム設計論 ICTシステム論 サイバーセキュリティ概論	1・2前 1・2後 1後 2前 2・3後 3・4前	○ ○ ○ ○ ○ ○	2 2 2 2 2 2		○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○		1 1 1 1 1 1					※講義 ※講義 ※演習 ※演習 ※演習 ※演習
	AI	小計(6科目)	—	—	4	8	0	—	—	1	2				—
		機械学習入門 機械学習応用 人工知能(AI)応用I 人工知能(AI)応用II	1後 2前 3・4前 3・4後	○ ○ ○ ○	2 2 2 2		○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○		1 1 1 1					1 1 1 1 1 1
		小計(4科目)	—	—	4	4	0	—	—	1	1				2 —
	数理・統計	基礎統計学 統計処理演習 データサイエンスと線形代数 データサイエンスと微積分 データサイエンスと物理 ベイズ推定とデータサイエンス ベイズ推定と意思決定	1後 2前 2前 2後 2・3前 2・3後 3・4前	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	2 2 2 2 2 2 2		○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○		1 1 1 1 1 1 1					2 3 3 3 1 —
		小計(7科目)	—	—	8	6	0	—	—	2					5 —
ヒューマン・ドメイン科目	ヘルスケア	ヘルスケア入門 心理学概論 心身測定学 生化学と栄養 生体検査学 発達学概論 リハビリテーション論 ヘルスプロモーション バイオメカニクス	1後 2・3前 2・3後 2・3前 2・3後 2・3前 2・3後 2・3前 2・3後	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	2 2 2 2 2 2 2 2 2		○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○		2 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1				オムニバス・ 共同(一部) ※演習 — ※演習 オムニバス ※演習 ※演習 オムニバス ※演習 ※演習 — 1 1 1 1 1 1 1 1
		小計(9科目)	—	—	2	16	0	—	—	2	1		1		3 —
		地域づくり入門 都市論 地域政策論 共生まちづくり論 ジェンダーと開発研究 家族生活論 国際協力論 アジア地域研究 アフリカ地域研究 自然環境保護論 環境ビジネス論	1後 2・3前 2・3後 2・3前 2・3後 2・3前 2・3後 2・3前 2・3後 2・3前 2・3後	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	2 2 2 2 2 2 2 2 2		○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○		1 1 1 1 1 1 1 1 1	2 1 1 1 1 1 1 1 1				オムニバス・ 共同(一部) ※演習 ※演習 ※演習 ※演習 ※演習 ※演習 ※演習 ※演習 — 1 1 1 1 1 1 1 1
		小計(11科目)	—	—	2	20	0	—	—	1	2		2		1 —
	コミュニケーション	異文化間コミュニケーション入門 異文化間コミュニケーション ソーシャルメディア論 宗教の世界史 比較文化論 教育社会学概論 比較教育学 メディア概論 メディアアリテラシー	1後 2・3前 2・3後 2・3前 2・3後 2・3前 2・3後 2・3前 2・3後	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	2 2 2 2 2 2 2 2 2		○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○		1 1 1 1 1 1 1 1 1	3 1 1 1 1 1 1 1 1				オムニバス・ 共同(一部) ※演習 ※演習 ※演習 ※演習 ※演習 ※演習 ※演習 ※演習 — 1 1 1 1 1 1 1 1
		小計(9科目)	—	—	2	16	0	—	—	1	3		1		1 —

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考									
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手										
プロジェクトマネジメント科目	マネジメントエントリート	未来体験プログラム	1前	○	2			○		○	1	1		2		オムニバス・共同(一部) ※実習、演習集中※講義 オムニバス※演習									
		共生社会フィールドスタディーズ	2通	○	2	6		○		○	1	1		1											
		プロジェクトマネジメント概論	2後	○	2			○	○		1			2											
		プロジェクトマネジメント演習	3前	○	2			○	○		3	1		4											
	経営学基礎	小計(4科目)	—	—	6	6	0	—	—	—	3	2		2	5	—									
		経営学入門	2前	○	2			○		○	1					※演習 ※演習 ※演習 ※演習 ※演習 ※演習									
		事業戦略論	2後			2		○		○	1														
実践科目	データ解析と	マーケティング概論	3前			2		○		○						1 1 1 1 1 1 1									
		企業会計I	2後			2		○		○	1														
		企業会計II	3前			2		○		○	1														
		DXマネジメント概論	2・3後			2		○		○															
		小計(6科目)	—	—	2	10	0	—	—	—	1														
		ドメインとデータ解析演習A	3・4前後	○		2			○							1	※講義								
		ドメインとデータ解析演習B	3・4前後	○		2			○							1	※講義								
	ゼミナール	ドメインとデータ解析演習C	3・4前後	○		2			○							1	※講義								
		ドメインとデータ解析演習D	3・4前後	○		2			○							1	※講義								
		ドメインとデータ解析演習E	3・4前後	○		2			○							1	※講義								
	卒業研究	ドメインとデータ解析演習F	3・4前後	○		2			○							1	※講義								
		ドメインとデータ解析演習G	3・4前後	○		2			○							1	※講義								
	小計(7科目)		—	—	0	14	0	—	—	—	1				4	—									
合計(116科目)		—	—	70	170	0	—	—	—	—	8	6	0	3	0	38	—								
学位	学士(ヒューマン・データサイエンス)	学位又は学科の分野	工学関係																						
卒業・修了要件及び履修方法								授業期間等																	
以下の条件を満たし、合計124単位以上を修得するものとする。																									
大学特別科目 必修2単位 教養科目 必修4単位、選択必修4単位 キャリア・インターンシップ科目 必修4単位 学科基礎科目 必修6単位 データサイエンス科目 選択必修10単位 ※1 データサイエンス 必修12単位 データエンジニアリング 必修4単位 AI 必修4単位 数理・統計 必修8単位 ヒューマン・ドメイン科目 選択必修20単位 ※2 ヘルスケア 必修2単位 地域づくり 必修2単位 異文化間コミュニケーション 必修2単位 プロジェクトマネジメント科目 プロジェクトマネジメント 必修6単位 経営学基礎 必修2単位 実践科目 ドメインとデータ解析 選択必修4単位 ゼミナール 必修4単位 卒業研究 必修8単位 その他、自由選択 16単位 合計 124単位 ※1 「データサイエンス」区分より4単位以上とする(但し「データサイエンス特講I・II」は対象外) ※2 「ヘルスケア」「地域づくり」「異文化間コミュニケーション」の選択科目より、それぞれ4単位以上とする																									
【履修科目の登録上限】 履修登録科目の上限は、年間49単位とする。																									
1学年の学期区分																2期									
1学期の授業期間																14週									
1時間の授業の標準時間																100分									

授業科目の概要				
(ヒューマン・データサイエンス学部ヒューマン・データサイエンス学科)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
大学特別科目	人間共生論		<p>本講義科目は建学の精神「自立と共生」を軸に、人権、倫理、貧困、差別、環境問題、メディア、人間関係、ストレスとの向き合い方を学ぶ。これらを多角的に考察し、現代社会における共生の意義を理解するとともに、共生社会の実現に向けた課題を主体的に考える力を養うことを目指とする。</p> <p>(オムニバス方式/全14回) (35 島田昌和/1回) 「自立と共生」の生き方を考え、グループワークを実施する。 (52 吉田修馬/2回) 共生の思想と倫理、人権の歴史を検討する。 (31 小林宏美/2回) 国際人権条約を基に、人権保障や教育の平等、女性の権利を考察する。 (27 甲斐田万智子/2回) 貧困・差別問題を権利ベースアプローチで分析し、共生のあり方を探る。 (10 登丸あすか/1回) メディアと人権の関係を理解する。 (6) 中山智晴/2回) 環境倫理の歴史や自然との共生メカニズムを考察する。 (30 小林剛史/1回) ストレスの生物学的理縛と共生の関連性を学ぶ。 (45 畑倫子/1回) 環境とストレスの関係から回復環境を探る。 (46 文野洋/1回) 人間関係のストレスと支えあいの重要性を考える。 (51 山崎幸子/1回) 高齢期の心理特性とストレスマネジメントを探求する。</p>	オムニバス方式 演習28時間 講義2時間
教養科目	情報リテラシーI		本演習科目では、パソコンの基本操作や主要なソフト (Word、PowerPoint、Excel) の使い方を学び、情報処理の基礎を身につけることを目的とする。特に、Excelを活用したデータ分析や統計処理の基礎を習得し、実践的に活用できる力を養う。さらに、高等学校の「情報」で学んだ内容を応用し、大学での学習や将来の業務で活かせるパソコンスキルを修得する。本科目を通じて、学生がデジタルツールを活用し、課題を整理・分析し、適切に情報を扱う力を身につけることを目標とする。	演習26時間 講義4時間
	情報リテラシーII		本演習科目では、「情報リテラシーI」で習得した基本的なITスキルを発展させ、Excelの応用技術や基礎的な統計処理を学ぶことを目的とする。表計算ソフトの高度な機能やデータベースの概念を理解し、実際の操作を通じてデータ管理・分析の基礎を習得する。特に、関数やピボットテーブルを活用したデータの整理・可視化、基本的な統計処理を行う技術を学ぶ。また、データの性質を理解し、Excelを用いたデータ分析の手法を実践的に身につけることで、データを適切に活用する力を養うことを目標とする。	演習26時間 講義4時間
	英語I		本演習科目では、データサイエンスに関連するトピックを通じて、英語の基礎スキルを向上させることを目的とする。科学技術に関する英文を読解し、専門用語の理解を深めるとともに、リスニングや文法の復習を行う。語彙練習や文法演習を通じて、科学的テーマに関連した文章の構造を理解し、内容を正確に把握する力を養う。特に、データサイエンス関連の語彙を理解し、基本的な科学トピックについての英文の読解力とリスニング力を身につけることを目標とする。	
	英語II		本演習科目では、英語Iで習得したスキルを基に、データサイエンス関連の英文をより深く理解し、読解・リスニング力を強化することを目的とする。文法の応用力を高めるとともに、簡単な英文の要約やデータの解釈を含むライティングの練習を行う。ペアやグループでのディスカッションを通じて、科学トピックについての会話や、図表・データの説明に必要な表現を学ぶ。科学技術関連の教材を活用し、図表やデータを英語で読み解き、適切な語彙を使える力を養うことを目標とする。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養科目	日本国憲法		本講義科目では、国際社会に生きる私たち自身が、まず日本の最高法規である憲法に何が書かれてあるのかを知り、それを身近な人に説明できるようになることを目指す。講義では、人身の自由や精神的自由の保障を中心に、経済的自由の保障、それらを支える統治機構について解説する。これらを通じて、日本国憲法の基本的な仕組みを理解し、条文の内容やその意義を正しく把握した上で、分かりやすく伝えられるようになることを目標とする。	
	法学		本講義科目では、受講生の法的な知的好奇心や関心を高めることを目的とする。日常生活の中に存在する「法」に気づき、それを理解することで、現在と将来の自分、そして未来の社会において役立てる力を養う。法とは何かを出発点とし、人に関する法、約束に関する法、事故に関する法、労働に関する法、犯罪に関する法、国際社会に関する法について学ぶ。これらを通じて、身の回りの法的問題を正しく理解し、法の役割を認識できるようになることを目標とする。	
	哲学		本講義科目では、建学の精神である「自立と共生」という概念を哲学的に探究する。人間が「自立」して生きるとは何を意味するのか、また「障がい」や「病い」、「老い」を抱える人も「自立」していると言えるのかを問いただす。さらに、他の者の助けを必要としない人間にとっても「共生」はなぜ不可欠なのかを考察し、「自立と共生」の関係性を深く理解することを目指す。グループワークを通じ、日本社会において「共生」を妨げてきた差別や排除、隔離といった歴史的・社会的課題について調べ、議論を重ねる。これらを通じて、共生社会の実現に向けて自ら考え、思想を実践できる力を養うことを目標とする。	講義20時間 演習10時間
	ジェンダー論		本講義科目では、受講生がジェンダーに関する諸理論と実践を学び、ジェンダーの視点から社会を批判的に分析し、平等を進めるための方策を考えられるようになることを目的とする。具体的には、女らしさや男らしさ、性別役割、セクシャルマイノリティといった概念について、歴史的背景や諸外国の状況と比較しながら解説し、日本の現状を把握する。さらに、現在の社会をジェンダーの視点から読み解く方法を身につけ、ジェンダー平等を進めるために現状を批判的に分析し、どのような課題があるかを捉え、具体的な方策を検討し提示できるようになることを目標とする。	講義20時間 演習10時間
	経済学		本講義科目では、経済学を初めて学ぶ人を対象に、その基本的な考え方を理解することを目的とする。この講義で扱うミクロ経済学とは、消費者や生産者の合理的行動を説明するための体系的な理論である。経済現象や市場メカニズムを解説するために、ミクロ経済学の基本的なモデルと考え方について説明する。ミクロ経済学の考え方を用いて身近な事象や経済ニュースを解釈し、消費者行動や生産者行動について説明できるようになること、さらにミクロ経済学の考え方をグラフを用いて表現し、説明できるようになることを目標とする。	
	フィットネス科学		本講義科目では、健康を維持・増進するための基本的な知識を修得し、健康の必要性を理解することとともに、日常生活での実践に活用できるようになることを目的とする。そのために、運動・スポーツを実践することによる身体へのメリットや、実践しないことによるデメリットを学ぶ。また、これらの効果と加齢変化との関連性を理解し、その改善策について検討する。さらに、スポーツを文化的な観点からも捉え、健康な生活を営むための実践知を考察できるようになることを目標とする。	
	フィットネス科学演習Ⅰ		本演習科目では、運動の必要性を理解しながらも、具体的な実践方法を身につけることが難しいという課題に着目し、健康を維持・増進するために実践的に学ぶことを目的とする。自身の身体に関する測定を行い、運動・スポーツの実際的な効果を理解し、指標に基づく判定と分析を通じてトレーニング目標を設定する。さらに、さまざまなトレーニング方法を実践し、健康維持・増進のための適切なトレーニングプログラムを立案できるようになることを目標とする。	
	フィットネス科学演習Ⅱ		本演習科目では、「フィットネス科学演習Ⅰ」での学修を基に、健康の維持・増進を目的とした運動プログラムの実践方法を学ぶことを目的とする。筋力・持久力・柔軟性・体組成の向上に関する知識を深めるとともに、スポーツ施設が利用できない環境でも実施可能なトレーニング方法を工夫する力を養う。グループワークを通じて運動プログラムの開発と検証を行い、実践上の課題を整理しながら、効果的な運動計画を立案する力を身につけることを目標とする。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養科目	ジェンダー・イノベーションと地域社会		本講義科目では、ジェンダー・イノベーション（生物学的・社会学的性差を分析する視点を技術や政策に取り込み、イノベーションを創出する）の概念を理解し、社会的課題をジェンダー視点で捉える姿勢を養うことを目的とする。私たちの暮らしを改善するジェンダー・イノベーションの事例を学び、自身の関心に基づいた新たなアイデアを企画する。これらを通じて、ジェンダー・イノベーションの基礎知識を身につけ、過去の取り組みを把握し、ジェンダーに基づく社会課題の解決に貢献できるアイデアを提案できるようになることを目標とする。	講義22時間 演習8時間
	パーソナルファイナンス		本講義科目では、パーソナル・ファイナンスの基礎を学び、個人を対象とする長期的の収支計画、資産管理、資金借入等に関する知識を深めることを目的とする。長期的な収支計画やライフプランに基づく資金計画の重要性を理解し、NISAやiDeCo、株式投資、投資信託、ETFなどの金融商品や、住宅ローン・カードローンなどの資金借入の仕組みを学ぶ。投資シミュレーションを通じて、投資に影響を与える社会事象について学び、将来の資産形成に活かせる知識とスキルを身につけることを目標とする。	講義20時間 演習10時間
	社会調査法 I		本講義科目では、社会調査の基本的な考え方を理解し、その意義や諸類型について学ぶことを目的とする。具体的には、社会調査の定義や歴史、質的調査と量的調査の違い、社会調査のプロセス、調査票の作成、サンプリング、調査の実施、データの管理方法までの一連の流れについて学び知識を身につける。社会調査の全体像を把握し、社会調査の目的、意義、歴史、類型、今日的課題を説明できるようになることを目標とする。	
	社会調査法 II		本講義科目では、有益なデータを得るために社会調査の企画・設計・実施方法を学ぶことを目的とする。授業の前半では、モデル調査票を用いた実査を行い、収集したデータをエディティングやデータクリーニングによって整理し、単純集計・クロス集計などの基本的な分析を実施する。後半では、実査までのプロセスを演習形式で学び、調査票の質問文や回答形式のポイントを理解した上で、受講者自身が調査テーマと仮説を設定し、それに基づいた質問を作成する。これらを通じて、仮説の構築、質問文・回答形式の作成、および調査票調査の適切な評価ができるようになることを目標とする。	講義20時間 演習10時間
	社会統計学 I		本講義科目では、社会調査によって得られたデータを読み解き・記述・分析し、効果的に可視化・提示するための基本的な知識を習得することを目的とする。具体的には、単純集計や基本統計量、クロス集計、相関係数、関連係数などの考え方を学び、分析目的やデータ形式に応じた適切な手法やグラフを活用する力を養う。さらに、統計ソフトウェアを用いたデータ分析を実践し、出力された結果を適切に解釈できるようになることを目標とする。	講義15時間 演習15時間
	社会統計学 II		本講義科目では、統計的データの整理・分析に必要な推測統計学の基礎的な知識を学ぶことを目的とする。確率論の基礎、基本統計量、検定・推定理論とその応用（平均や比率の差の検定、独立性の検定）、サンプリングの理論、属性相関係数（クロス表の統計量）、相関係数、偏相関係数、変数のコントロール、回帰分析の基礎について学ぶ。さらに、Excelを用いて統計的推定の計算手順を再現し、データの種類と目的に応じた統計的検定を実施できるようになることを目標とする。	講義15時間 演習15時間
	量的データ分析		本講義科目では、社会調査データの分析に必要な多変量解析の基礎を学ぶことを目的とする。重回帰分析を中心に、分散分析、バス解析、ログリニア分析、ロジスティック回帰分析、因子分析、数量化理論、マルチレベル分析など、主要な計量モデルの基本的な考え方を学ぶ。これらの手法を適用することで、データの関係性を的確に分析し、社会調査や研究に活用できる力を養う。統計ソフトを用いたデータ分析の実践等を通じて、出力する分析結果を適切に解釈できるようになることを目標とする。	講義15時間 演習15時間
	質的データ分析		本講義科目では、社会調査の中でも質的調査と呼ばれるデータ収集・分析の方法について学ぶことを目的とする。数値化されていないデータを扱う際の思考法やその意義を理解し、実際のデータ収集・分析の基礎を習得する。さらに、調査協力者やフィールドと深く関わる質的調査において求められる調査倫理についても学ぶ。これらを通じて、質的調査と質的データの特性やメリットを説明できるようになり、収集したデータの基礎的な分析を行い、調査倫理について適切に説明できるようになることを目標とする。	講義15時間 演習15時間

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養科目	社会調査法実践（質的）Ⅰ		本演習科目では、質的調査への取り組みを通じて社会調査の一連のプロセスを習得することを目的とする。後期開講の「社会調査法実践（質的）Ⅱ」で実施する調査に向け、調査法の基礎的練習を行い、調査テーマの設定、情報収集、先行研究の整理・検討、調査企画・設計を進める。これらを通じて、社会調査の知識を実践的に生かし、自ら遂行できる力を養うとともに、インタビューを中心とした質的調査法について検討・議論し、コミュニケーションとしての質的調査の観点を理解する。最終的に、得られた知見を基に実際の社会調査に生かし、適切な企画・設計が行えるようになることを目標とする。	
	社会調査法実践（質的）Ⅱ		本演習科目では、質的調査を通じて社会調査の一連のプロセスを習得することを目的とする。前期開講の「社会調査法実践（質的）Ⅰ」での作業内容を踏まえ、調査計画の再検討を行い、調査の実施、質的データの分析・考察、報告書作成までを進める。これらの実践を通じて、社会調査の知識を活用し、主体的に調査を遂行できる力を養う。また、インタビュー調査の経験や報告書作成の過程を通じて、コミュニケーションとしての質的調査の観点を理解し、質的データの分析・考察を深め、論文として成果をまとめられるようになることを目標とする。	
	社会調査法実践（量的）Ⅰ		本演習科目では、量的調査への取り組みを通じて社会調査の一連のプロセスを習得することを目的とする。後期開講の「社会調査法実践（量的）Ⅱ」で実施する調査に向け、調査目的の明確化、仮説の設定、質問項目の構成、調査票の作成、プレテスト（予備調査）などの基礎的作業を行う。量的調査では、対象者の意識や行動を数値化し、傾向や関係性を統計的に分析することが重視されるため、信頼性・妥当性を考慮した調査設計が求められる。これらを通じて、量的データに基づいた社会調査の計画立案能力を養うこと目標とする。	
	社会調査法実践（量的）Ⅱ		本演習科目では、量的調査を通じて社会調査の一連のプロセスを実践的に学ぶことを目的とする。前期開講の「社会調査法実践（量的）Ⅰ」で作成した調査計画を踏まえ、調査の実施、データ収集、集計・分析、考察、報告書の作成までを行う。量的調査では、得られた数値データを用いて統計的手法による仮説の検証や傾向の把握を行い、客観性の高い知見の導出が求められる。これらのプロセスを通じて、量的データをもとに論理的に説明・報告する力を養い、実践的な調査遂行力を高めることを目標とする。	
キャリア・インターンシップ科目	キャリアデザインⅠ	○	本講義科目では、大学生活におけるキャリアを充実させるために必要な基礎的な知識・スキル・考え方を総合的に身につけることを目的とする。キャリアは、ライフ・キャリア（生活全般に関わる役割・経歴の連鎖）とワーク・キャリア（仕事に関わる役割・経歴の連鎖）の両方を含むが、本授業では相対的にライフ・キャリアを重視する。授業を通じて、自己理解と他者理解を深め、円滑な意思伝達を図る力を養い、大学生活の過ごし方と関連するキャリアに関する基礎的な知識を習得する。最終的に、大学生活のキャリアデザインを行い、それを実行できるようになることを目標とする。	講義15時間 演習15時間
	キャリアデザインⅡ	○	本講義科目では、将来の仕事に関するキャリアを充実させるために必要な基礎的な知識・スキル・考え方を総合的に身につけることを目的とする。キャリアには、ライフ・キャリア（生活全般に関わる役割・経歴の連鎖）とワーク・キャリア（仕事に関わる役割・経歴の連鎖）の両方が含まれるが、本授業では相対的にワーク・キャリアを重視する。授業を通じて、将来の仕事を見据えて専門分野を学ぶ意義を理解し、職業生活（就職活動を含む）を充実させるための準備を進める。最終的に、将来の仕事に関するキャリアデザインを行い、今から実行できるようになることを目標とする。	講義15時間 演習15時間
	インターンシップ		本実習科目では、企業や官公庁での就業体験を通じて、将来のキャリア形成に役立つ知識・スキル・考え方を総合的に身につけることを目的とする。実習前の事前学習として、ビジネスマナーの習得、自己理解、仕事研究、実習計画の立案を行い、実習に向けた準備を整える。実習期間中は、実際の職場での業務を通じて、社会人としての基本的な姿勢やスキルを習得する。実習後には、達成度の評価を行い、成果を振り返ることで学びを深める。最終的に、成果報告会を実施し、実習で得た経験を整理し、今後のキャリア形成に活かすこと目標とする。	実習60時間 講義45時間
	キャリア特講Ⅰ		本講義科目では、近年多様化するインターンシップの実態をケーススタディを通じて検討し、受講生が自身のキャリアに照らして理解を深めることを目的とする。従来の就業体験型に加え、社会課題解決型や経営マインド育成型など、さまざまなインターンシップの形態を取り上げ、その特徴や効果を考察する。受講生は、インターン生としての経験が自己成長にどのように寄与するかを検討するとともに、企業側の視点から、社員の意識変容や組織内の連携強化への影響についても理解を深める。さらに、関東・関西の地域特性を踏まえた地域企業による実践型プログラムを取り上げ、インターンシップの多様な価値を探る。これらの学びを通じて、インターンシップへの目的意識を明確にし、より実践的な経験を積む準備を整えることを目標とする。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
イキ ン・ヤ タリ ー・ア ン・ シ ツ プ 科 目	キャリア特講II		本講義科目では、起業を視野に入れた学生を対象に、社会的課題の発見からビジネスへの転換プロセスを学ぶことを目的とする。現代社会では、多くの新規事業が社会的課題の解決を起点として生まれており、本講義ではそのプロセスを体系的に理解する。具体的には、アントレプレナーの事例を研究し、どのように課題を発見し、それをビジネスへと落とし込んだのかを分析する。また、アメリカの中小企業における事例を取り上げ、グローバルな視点で課題解決型ビジネスの展開を学ぶ。さらに、データサイエンスの活用にも着目し、起業のみならず企業内起業における課題発見・分析の手法を検討する。ヘルスケア、地域活性化、環境分野など、社会的インパクトの大きい分野を中心に、多様な産業や組織との連携を前提とした実践的な知見を修得することを目標とする。	
学 科 基 礎 科 目	初年次演習I		本演習科目では、高校から大学への移行を円滑にし、主体的に学ぶ姿勢を身につけることを目的とする。大学で必要となる読解力の向上やプレゼンテーションスキルの習得に加え、社会で求められるコミュニケーション能力やグループ活動を進める力を養う。少人数クラスでの対話を通じて、他者との協働を深め、論理的思考力や表現力を伸ばす。これらを通じて、学生が大学生活を主体的にデザインし、今後の学びに積極的に取り組むための基盤を築くことを目標とする。	演習15時間 講義15時間
	初年次演習II		本演習科目では、大学で必要とされる読解力を強化し、文章を正確に理解・分析し、適切に活用する力を養うことを目的とする。文章の構造や主旨を的確に把握し、情報を整理・統合する手法を学び、ゼミや卒業研究で活用できるスキルを身につける。さらに、情報の信頼性を見極める力を養い、批判的読解を通じて論理的に考察する力を培う。授業ではプレゼンテーションや論文作成の演習を行い、学術的な発信力を高めるとともに、大学での学びや将来のキャリアに応用できる実践力を養うことを目標とする。	演習15時間 講義15時間
	データサイエンスへの いざない		本講義科目では、データサイエンスを学ぶために必要な数学やプログラミングの基礎を振り返り、学習意欲を高めることを目的とする。データサイエンスの理解には、数学的思考や論理的なプログラミングスキルが不可欠であり、それらの基礎を確認しながら、学びの土台を固める。具体的には、アートを中心とした課題について、高校までに学んだ各教科の知識や技能を組み合わせて解決策を検討し、創造的にアウトプットするアクティブラーニングを行う。また、大学で学問を学ぶために重要な学習言語読解力についても習得することを目標とする。 (オムニバス方式/全14回) (24 稲垣俊介/4回) プログラミングの基本概念と、数学的思考や論理的思考の重要性について解説し、実際にプログラミングによってアート作品をつくる演習を行う。 (33 品田健/10回) アートに関する課題を取り上げ、データサイエンスの活用方法について創造的にアウトプットするアクティブラーニングを実施する。	オムニバス方式 講義15時間 演習15時間
デ ー タ サ イ エ ン ス 科 目	データサイエンス	○	本演習科目では、Pythonを用いたプログラミングの基礎を学び、簡単なプログラムを作成する力を身につけることを目的とする。変数・条件分岐・繰り返し処理などの基本的な文法を学びながら、リストや辞書を活用したデータの管理や、ファイルの読み書き、簡単な検索や並べ替えの方法を理解する。また、演習を通じてプログラムの組み立て方を理解し、データの整理や活用の基礎的なスキルを習得する。最終的には、学習した内容を活かし、簡単なゲームやプログラムを作成できるようになることを目標とする。	演習40時間 講義20時間
	プログラミングI	○	本演習科目では、データを扱うプログラミング技術を学び、データの整理・可視化・保存を適切に行う力を身につけることを目的とする。前期で学んだ基本文法を活かしながら、Pandasを用いたデータ処理、MatplotlibとSeabornを用いたデータの可視化を学び、情報を効果的に表現する方法を習得する。また、バージョン管理の基本を理解し、プログラムの変更履歴を適切に管理できるようになることを目指す。演習を通じて、実際のデータを扱いながら、最終的にはデータを活用した簡単なプログラムを作成し、情報を分析・可視化するスキルを身につけることを目標とする。	演習20時間 講義10時間
	プログラミングII	○		

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
データサイエンス科目	プログラミングIII	○	本演習科目では、「プログラミングI・II」で学んだPythonの基礎を発展させ、Webスクレイピングの技術を習得することを目的とする。ビッグデータやメディア・データの蓄積・共有・統合・想起・配信・応用に必要なプログラミングスキルを学ぶ。具体的には、データの自動取得や解析手法を実践的に学び、Web上の情報を効率的に収集・活用する技術を習得する。演習を通じて、データ収集の精度を向上させ、実社会で応用可能なスキルを身につけることを目標とする。	演習20時間 講義10時間
	ドメインとデータサイエンス	○	本講義科目では、「ヘルスケア」「地域づくり」「異文化間コミュニケーション」の3つのドメインにおいて、数理的な考え方、またAIがどのように活用されているかを理解することを目的とする。学生が数理モデルや数値解析を用いて現象を整理し、課題を分析・解釈できる力を養うとともに、AIの社会的影響を考える力を身につけることを目標とする。 (共同・オムニバス方式／全14回) (1 浜正樹・② 穴太克則/7回) (共同) 第1回オリエンテーション、第5回AI演習、第6回数列、第9回行列・ベクトル、第11回一次・指數関数、第13回確率・ベイズ推計、第14回数理演習を担当し、講義と演習を2名体制で実施する。 (1 浜正樹/3回) 第2回～4回では、AIが3ドメインでどのように活用されているかを事例を用いて解説する。 (② 穴太克則/4回) 第7回～8回、10回、12回では、3ドメインの事例を交えながら、数列、行列、指數関数を解説する。	オムニバス方式・ 共同（一部） 講義20時間 演習10時間
	シミュレーション論		本講義科目では、複雑なシステムの解析や経営分析などに活用されるシミュレーション技術について学び、人文・自然・社会科学における数理モデルとシミュレーション手法を理解することを目的とする。具体的には、シミュレーションの基本的な手法を学び、コンピュータを用いた解析を通じて実社会での応用例を体験する。これにより、シミュレーションの基本的な数理モデルを説明できるようになり、シミュレーションを用いた分析が行えるようになることを目標とする。	講義20時間 演習10時間
	ヒューマンデータ可視化法		本講義科目では、人の行動・生理データ(ヒューマンデータ)の可視化技術を習得し、分析結果を効果的に伝える方法を学ぶことを目的とする。デジタルメディア（テキスト、画像、2D・3DCG、音）のデータ処理やビジュアリゼーション技術を活用し、情報の理解を促進するとともに、新たな価値や体験の創出を目指す。授業では、データ可視化の基礎概念を学び、適切な手法を選択する力を養うほか、可視化ツールを用いた測定結果の整理や伝達、プログラミングによるリアルタイム可視化の技術を習得する。これにより、データを的確に表現し、効果的に伝えられるようになることを目標とする。	講義18時間 演習12時間
	音声解析概論		本講義科目では、音声認識と処理の基礎を学び、音声解析技術の理論と実践的なスキルを身につけることを目的とする。特に、Pythonを用いた音声データの処理、認識、合成の技術を習得し、実際の応用例を通じて理解を深める。授業では、基本的な音声処理技術の習得に加え、音声認識技術の実装や音声合成技術（Text-to-Speech）の概念を学ぶ。さらに、最新のAI音声処理技術（OpenAIのWhisperなど）の概要を把握し、音声認識を活用したアプリケーションの設計・実装を行う。これらを通じて、音声データの解析・活用に必要な基本的な手法を理解できることを目標とする。	講義20時間 演習10時間
	画像解析概論		本講義科目では、画像解析、コンピュータグラフィックス、VR技術、画像処理・解析・可視化手法の基礎を理解し、それらの応用を修得することを目的とする。授業では、デジタル画像の基礎や画像処理技術を学び、空間周波数フィルタ処理やAIを活用した画像認識・画像処理の基本概念を習得する。さらに、画像情報の可視化技術を学び、自身の研究活動で活用できる画像処理および解析に必要な基本的な手法を修得することを目標とする。	講義20時間 演習10時間
	自然言語解析概論		本講義科目では、学生が自然言語処理（NLP）の基礎理論と応用手法を体系的に学ぶことを目的とする。文字、単語、文、文書レベルでの統計モデルや機械学習を活用した技術を理解し、プログラミングを通じて実装する力を養う。授業では、自然言語処理の基礎理論を学び、形態素解析、意味解析と分散表現、感情分析、トピックモデルの活用など、実践的な手法をプログラミング言語を用いて習得する。これらを通じて、NLPの理論と実装の両面を深く理解し、実際のデータ分析や応用に活かせる手法を理解できることを目標とする。	講義20時間 演習10時間

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
データサイエンス科目	時空間データ分析		本講義科目では、地球および社会環境活動における空間的分布と時間的変動の特性を理解し、環境データの適切な収集・分析・解釈を行う能力を養うことを目的とする。GISを活用した地域環境の空間分析や環境時系列データの解析を学び、地域社会の課題解決に役立てる力を身につける。これらを通じて、GISツールを用いた時空間分析の基本手法を理解し、適切なデータの収集・分析・可視化を行い、最適な手法を選択できるようになることを目標とする。	講義26時間 演習4時間
	IoTとヒューマンデータ		本講義科目では、IoT（モノのインターネット）技術の基礎を学び、IoTシステムを活用したヒューマンデータを収集・分析するための基本的スキルを修得することを目的とする。マイクロコンピュータや人の行動・生理反応を測定するセンサーとの接続、データの保存方法などを学び、自作したIoT機器を用いて理論と実践の両面から理解を深める。これらを通じて、IoTの概念や技術的背景を理解し、センサーデータの取得・前処理・分析・可視化を行い、ヒューマンデータの収集から分析を実践できるようになることを目標とする。	講義15時間 演習15時間
	IoTとGIS		本講義科目では、IoT（モノのインターネット）とGIS（地理情報システム）を組み合わせたデータ分析手法を学び、空間情報の活用スキルを養うことを目的とする。IoTの基礎概念を理解し、センサーデータの収集・前処理、Excelを用いたデータの可視化・分析を習得する。さらに、GISを活用した空間データの統合・解析を行い、IoTデータを多角的に理解する力を身につける。演習を通じて、IoTとGISを組み合わせた実践的なデータ活用方法を学び、地域や環境分野での応用力を高めることを目標とする。	講義20時間 演習10時間
	データマイニング概論	○	本講義科目では、データマイニングの基本的な考え方を学び、オープンデータなどの実際のデータを用いた活用手法を理解することを目的とする。統計学や機械学習を用いたデータの分析手法を学び、大量のデータから有益なルールやパターンを抽出する技術を習得する。これらを通じて、データマイニングにおけるデータの前処理はじめ、回帰・クラスタリング・分類、またテキストマイニングや画像・動画データマイニングについても説明・実装できるようになることを目標とする。 (共同・オムニバス方式／全14回) (① 浅野俊幸/7回) データマイニングの導入と基本手法（第1回～7回）を担当。テキストデータ・ネットワーク分析に関する理解と実践を含む。 (② 穴太克則/7回) クラスタリング・分類などの教師あり／なし学習、および画像・動画データを含むマルチモーダル・マイニングの理解と実践、グループ発表（第8回～14回）を担当。	オムニバス方式 講義20時間 演習10時間
	トピックモデル概論		本講義科目では、トピックモデルについて理論と実践を組み合わせながら学ぶことを目的とする。確率論の基礎から始め、ユニグラムモデル、混合ユニグラムモデル、トピックモデル（LDA）へと順を追って理解を深める。さらに、トピックモデルの発展形や実データへの応用例にも触れ、実践的な活用方法を学ぶ。これらを通じて、ユニグラムモデルや混合ユニグラムモデル、トピックモデル（LDA）の仕組みを説明できるようになり、LDAを用いた文書データの分析が行え、トピックモデルの発展形についても理解を深めることを目標とする。	講義20時間 演習10時間
	データサイエンス特講Ⅰ		本講義科目では、データサイエンスの実社会での活用事例を通じて、社会課題に対する知識と理解を深めることを目的とする。企業の経営データ分析、エンターテインメント業界でのAI活用、福祉分野への応用など、具体的なテーマを扱い、データサイエンスがどのように意思決定や課題解決に寄与しているかを学ぶ。講義では、実務家経験のあるゲストスピーカーによる解説と事例分析を通じて、データ活用の実際を体感し、自ら考え、議論できるようになることを目標とする。	講義26時間 演習4時間
	データサイエンス特講Ⅱ		本講義科目では、実社会における課題発見能力を強化するために、生データを情報に基づくビジネス上の意思決定に必要な情報に変換するプロセスというビジネスデータアナリティクス・サイクルについて理解を深め、学生が、自らデータサイエンスプロジェクトを実施していくためのフレームワークを身につけることを目的とする。そのために、国際ビジネスアナリシス協会（IIBA）が定義する「ビジネスアナリティクス」を学ぶ。また、アジャイル拡張について学習し、データサイエンスプロジェクトへの適用方法を身につけることを目標とする。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
データサイエンス科目	ヒューマンデータエンジニアリング演習Ⅰ		本演習科目では、Arduinoやセンサー、3Dプリンターの基本的な操作を学び、ヒューマンデータ測定システムを実装するための基礎的なスキルを修得することを目的とする。入門的な内容を中心に、センサーを用いた測定デバイスのプロトタイプを作成し、3Dプリンターを活用したケース設計・製作を行う。これにより、マイクロコンピュータ（Arduinoなど）の基本操作を理解し、ハードウェアとソフトウェアの連携技術を習得することを目標とする。	演習20時間 講義10時間
	ヒューマンデータエンジニアリング演習Ⅱ		本演習科目では、ゲームエンジンやVR技術、コンピュータビジョンを活用したインタラクティブなシステムの構築を学び、ヒューマンデータを活用するための応用スキルを修得することを目的とする。基礎技術の応用として、ゲームエンジンを用いたシーン構築、コンピュータビジョンによる表情・動作解析、VR機器を活用したアプリケーション開発を実践する。これにより、センサー技術と先端技術を統合し、新たな価値創出につながるシステムを構築できるようになることを目標とする。	演習20時間 講義10時間
	データベースシステム概論	○	本講義科目では、リレーショナルデータベースの基礎知識を学び、データ管理・利活用の基本スキルを習得することを目的とする。データベースの設計やSQLを用いた操作の基礎を理解し、実社会で求められるデータ利活用能力を育成する。授業では、データベースの種類やDBMSの基本的な特徴を学び、リレーショナルデータベースの構造と役割を理解する。さらに、SQLを用いたデータの検索・挿入・更新・削除の基本操作を実践し、簡易なデータベースの設計・構築を行う。これらを通じて、データベースの実社会での活用方法を具体的な事例をもとに理解できるようになることを目標とする。	講義15時間 演習15時間
	システム設計論	○	本講義科目では、システム開発の上流工程にあたるシステム設計の基本概念を学び、その手法を修得することを目的とする。システム設計は、プログラム作成前の要件定義や顧客との調整段階で重要な役割を果たし、開発プロセスの指針となる。本講義では、設計手法やドキュメント作成の基本を学び、システムの構造や機能を整理する方法を習得する。さらに、演習を通じてシステム設計の実践力を養い、適切な仕様策定ができる力を身につける。これらを通じて、システム開発の目的や意義を理解し、代表的な開発手法を説明できるようになり、簡易なシステムの仕様策定と実装を行えるようになることを目標とする。	
	ICTシステム論		本講義科目では、コンピュータ・ネットワーク社会において、情報を処理・活用・伝達するために必要な基礎知識を習得することを目的とする。授業では、IT基礎理論、コンピュータシステム、データベース、ネットワーク、情報セキュリティ、情報デザイン、情報メディアに関する知識を学び。これを通じて、N進数の計算、基本的なアルゴリズムやコンピュータ・システムの構成要素、ソフトウェアの種別の説明とともに、インターネット、データ管理、通信、セキュリティ、新技術（AI・ビッグデータ・IoTなど）の基礎知識を説明できるようになることを目標とする。	講義20時間 演習10時間
	サイバーセキュリティ概論		本講義科目では、コンピュータ・ネットワーク社会における情報の安全な処理・活用・伝達を支えるサイバーセキュリティの基礎知識を学ぶことを目的とする。情報セキュリティ、情報セキュリティ管理、情報セキュリティ対策、セキュリティ実装技術について理解を深め、それらを業務に活かす力を養う。具体的には、情報セキュリティの基礎知識を習得し、セキュリティ管理に必要な考え方や規程の概要を説明できるようになる。さらに、情報セキュリティ対策の種類やその概念、セキュリティ実装技術の基礎用語を理解し、適切な運用ができるることを目標とする。	講義20時間 演習10時間
	機械学習入門	○	本講義科目では、機械学習の基本概念とプログラミングの修得を目的とする。近年、機械学習はデータサイエンスや画像解析など幅広い分野で活用されており、その基礎を理解することが重要となっている。本授業では、教師あり学習と教師なし学習を中心に、機械学習の理論と実践を学ぶ。具体的には、機械学習の基本的な概念を説明できるようになるとともに、機械学習のためのプログラミングスキルを身につけることを目標とする。	講義20時間 演習10時間
A I	機械学習応用	○	本講義科目では、機械学習入門で学んだ内容を踏まえ、強化学習の基本概念とプログラミングの修得を目的とする。強化学習は、データサイエンスのみならずロボット制御などの分野でも活用されており、機械学習の応用として重要な手法である。本授業では、強化学習の理論と実践を学び、エージェントの学習プロセスや報酬設計の考え方を理解し、アルゴリズムの実装を行う。具体的には、強化学習の基本的な概念を説明できるようになるとともに、プログラミングスキルを身につけることを目標とする。	講義20時間 演習10時間

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考	
データサイエンス科目	A I	人工知能(AI)応用 I	本講義科目では、人工知能の基礎を理解し、機械学習や深層学習の手法を体系的に学ぶことを目的とする。人工知能の概念や歴史、知識表現と推論、ニューラルネットワーク、深層学習、進化的計算、エージェント技術、強化学習などを学び、Pythonを用いた演習を通じて実践的な理解を深める。具体的には、エキスパートシステム、階層型ネットワーク、畳み込みニューラルネットワーク、敵対的生成ネットワーク、遺伝的アルゴリズムなどの技術を扱い、モデルの構築・学習・評価ができるようになることを目標とする。	講義20時間 演習10時間	
		人工知能(AI)応用 II	本講義科目では、人工知能応用 Iで学んだディープラーニングの基礎を踏まえ、より応用的な手法を実践し、深層学習の理解を深めることを目的とする。PyTorchを用いた学習モデルの構築・学習・推論を行い、より複雑なデータへの適用方法を習得する。具体的には、人工知能応用 Iで扱ったMLPやCNNに加え、自前で用意した画像データセットを活用しながら、転移学習、オートエンコーダー、ResNet、LSTMの実装を行う。さらに、モデルの構築・学習・検証を通じて、実データを用いた高度なディープラーニング技術を習得し、応用力を高めることを目標とする。	講義20時間 演習10時間	
	数理・統計	基礎統計学	○	本講義科目では、統計学の基本概念を理解し、データの整理・記述・分析・推測のスキルを修得することを目的とする。基本的な統計用語や概念を学び、データの収集・整理・可視化を実践する。具体的には、平均・中央値・分散・標準偏差などの記述統計量を計算・解釈し、単回帰分析によるデータの関係性の分析を行う。また、確率論の基本的な考え方を理解し、信頼区間や仮説検定といった推測統計の手法を適用できることを目標とする。	講義20時間 演習10時間
		統計処理演習		本演習科目では、統計検定2・3級レベルの統計的知識とプログラミングスキルを用いたデータ分析を学び、統計的手法による課題解決力を養うことを目的とする。演習を通じて、理論の理解だけでなく、統計的手法を実践的に活用する力を身につける。具体的には、データの種類や記述統計の基本概念を理解し、標本調査や確率分布を実データの分析に適用する。さらに、仮説検定や推定手法を用いた意思決定を学び、データ分析を通じて課題を客観的・論理的に発見し、解決策を提案できることを目標とする。	演習20時間 講義10時間
		データサイエンスと線形代数		本講義科目では、データサイエンスの基礎となるベクトルや行列の概念を正しく理解し、それらを活用するスキルを習得することを目的とする。基本演算から始め、逆行列、線形変換、固有値分解などの重要なトピックを学び、データ処理や解析への応用を理解する。具体的には、ベクトルや行列の基本演算を正しく理解し、計算を実行できるようになる。さらに、逆行列や線形変換の概念を学び、具体例を通じてその応用を説明できる力を養う。固有値分解の数学的背景を理解し、計算方法を習得するとともに、Pythonを用いたプログラミングを通じて、線形代数の概念を機械学習などのデータ処理に適用できることを目標とする。	講義20時間 演習10時間
	データサイエンスと微積分			本講義科目では、微積分の基本概念を理解し、Pythonプログラミングを用いた演習を通じて実践的に学ぶことを目的とする。数式だけでなく、グラフ化やシミュレーションを活用しながら、その重要性を直観的に理解する。具体的には、微分と積分の基本概念を説明し、Pythonで計算・可視化を行う。さらに、微積分の応用を学び、データサイエンスの課題に結び付ける力を養う。また、科学技術や社会への影響を考察し、プログラムによるシミュレーションを実践し、結果を分析・解釈できることを目標とする。	講義20時間 演習10時間
		データサイエンスと物理		本講義科目では、バイオメカニクスでのデータ収集や分析に必要な物理学の基礎知識を、演習を交えながら身につけることを目的とする。運動の記述やニュートン力学の基礎を学び、身体計測やデータ分析に必要な物理量の扱いを習得する。ニュートン力学の基礎を図を用いて説明できるようになるとともに、力の概念や力と運動の関係性を理解する。さらに、身体におけるテコの機能や、身体計測におけるモーメント量について説明できることを目標とする。	講義20時間 演習10時間
	ベイズ推定とデータサイエンス			本講義科目では、ベイズ統計の基礎を理解し、PythonおよびPyMC5を用いたデータ分析手法を習得することを目的とする。ベイズ推論の基礎概念を学び、確率的なデータ更新の考え方を身につけるとともに、統計モデルの構築・解析に必要なスキルを養う。さらに、基本的な回帰モデル、階層ベイズモデル、潜在変数モデルを対象に、PythonとPyMC5を用いたプログラミングを実践し、データ分析への適用方法を学ぶ。これらを通じて、ベイズ統計的の理論と実践の両面から理解を深め、応用力を身につけることを目標とする。	
		ベイズ推定と意思決定		本講義科目では、データサイエンス、機械学習、人工知能分野で注目されているベイズ的アプローチの基礎、考え方、手法の概論について修得することを目的とする。ベイズ推定、ベイジアン機械学習の回帰モデル、潜在変数モデル、深層学習モデルを中心に、その基本概念を理解し、応用の幅を広げる。ベイジアン統計的意思決定の基本概念を説明できるようになるとともに、回帰モデル、潜在変数モデル、深層学習モデルの機械学習への応用を理解し、Pythonを用いた基礎的なプログラミングができるることを目標とする。	講義25時間 演習5時間

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
ヒューマン・ドメイン科目	ヘルスケア入門	○	<p>本講義科目は、ヘルスケアの多面的な概念（身体的・精神的・社会的側面）を理解し、人々が心身ともに健やかに暮らせる社会の実現に向けた社会課題を理解するための基礎を身につけることを目的とする。食生活、運動、睡眠、メンタルヘルス、歯科口腔保健、健康格差、社会保障制度、職場の健康管理など、現代の健康に関する多様なトピックを通して、健康と社会との関わりを多角的に捉える視点を養う。</p> <p>（共同・オムニバス方式／全14回） (⑩ 飯田開・④ 神作一実・③ 飯島史朗・⑫ 長野祐一郎／2回) (共同) 第1回のオリエンテーションで各分野を紹介し、最終回で学びを総括する。 (⑩ 飯田開/3回) 健康の概念、身体活動・運動、労働者の職場での健康管理について講義を行う。 (④ 神作一実/3回) 歯科口腔保健、社会保障の概念、保健・医療・福祉制度について講義を行う。 (③ 飯島史朗/3回) 健康の社会的決定要因・健康格差、生活習慣病、食生活と栄養について講義を行う。 (⑫ 長野祐一郎/3回) ストレスの概念、ストレスマネジメントと睡眠について講義を行う。</p>	オムニバス方式・共同（一部）
	心理学概論		本講義科目では、心理学の歴史と基本的な概念を学び、基礎的な専門用語や方法論を通じて、心理学の学問的基盤を理解する。人間の行動や認知だけでなく、感情やストレス、精神的健康といったテーマも扱い、精神的側面からヘルスケアを理解するための基礎的な視点を養う。さらに、心理学的理論が実社会や日常生活の課題解決にどのように応用されているかを、現代のメンタルヘルス支援などの具体例を通して考察する。	
	心身測定学		本講義科目では、人間の心と体を科学的に測定する基本的な方法と技術を修得することを目的とする。視覚・聴覚刺激への反応測定や生理指標の記録・分析を通じ、心理学や生理学における心身の状態を把握する手法について学ぶ。心身測定の基本概念を理解し、適切な測定方法を選択できる力を養う。さらに、測定装置を適切に操作し、行動指標（表情・姿勢など）や生理指標（心拍数・皮膚電気活動など）を収集・分析し、統計的手法を用いた結果の解釈ができるることを目標とする。	講義20時間 演習10時間
	生化学と栄養		本講義科目では、生化学と栄養学の基礎を学び、ヒトが生きるために必要な栄養素が、体内でどのように利用され、それがどのように生命の維持につながるのかを理解する力を養う。細胞や栄養素の基礎的理 解に加え、現代の食生活や健康格差といった社会的課題との関連にも触れながら、身体的健康の維持・増進における栄養の重要性を理解する。現在の食生活における課題や健康格差といった社会課題にも触れる。	
	生体検査学		本講義科目では、人の健康状態を評価するための基本的な検査手法とその理論的背景を理解し、健康状態や疾患リスクを科学的に把握する知識を習得することを目標とする。また血液検査や身体計測をはじめとする生体検査の方法と目的を学び、臓器の機能や疾患の状態を把握するための検査結果の解釈を理解する。さらに、生活習慣病の予防に必要な検査値の意味を正しく理解し、日常的な健康管理に役立てることができることを目標とする。これらの知識は、ヘルスケアの視点から生活習慣の改善や健康格差の是正などの社会的健康課題に取り組むための基礎となる。	
	発達学概論		本講義科目では、人間の生涯にわたる発達過程を理解し、発達がもたらす身体的、心理的、社会的な変化について学ぶことを目的とする。乳幼児期から老年期に至る各発達段階の特徴や課題を取り上げ、発達に影響を与える環境要因や個人差を考察する。また、発達支援や教育、福祉分野での応用可能性も検討する。発達障害や加齢に伴う課題について理解を深め、個々の成長や生活の質（QOL）を支えるための方法を検討する。これらを通じて、発達支援や教育、福祉分野での応用を多角的に捉えることを目標とする。	講義15時間 演習15時間

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
ヒューマン・ドメイン科目	リハビリテーション論		<p>本講義科目では、リハビリテーションの基本概念と実施目的を理解し、健康維持や生活の質（QOL）向上に向けた取り組みを学ぶことを目的とする。身体的・精神的・社会的な側面を含むヘルスケアの視点から、リハビリテーションが個人や地域社会にどのように関与し、貢献しているのかを多面的に捉える力を養う。また、理学療法および作業療法の各分野における支援の特徴を学び、リハビリテーションの実践において活用される評価・観察手法や、可視化技術の事例について基礎的な理解を深める。</p> <p>（オムニバス方式/全14回） (④ 神作一実/9回) 総論（第1回～4回）、作業療法における日常生活支援技法の検討（第9回～11回）、多職種連携の基礎（第12回）、まとめ（第14回）を担当。</p> <p>（⑯ 飯田開/5回） 理学療法における専門性と可視化技術の基礎（第5回～8回）、社会課題の中で求められるリハビリテーションの役割（第13回）を担当。</p>	オムニバス方式 講義20時間 演習10時間
	ヘルスプロモーション		<p>本講義科目では、人々が健康に生活するために必要な基礎的な知識や考え方を学ぶ。ヘルスプロモーション（健康づくり）の基本的な理念や、健康に影響を与える生活習慣、環境、社会のしくみについて理解を深める。生活習慣病やメタボリックシンドローム、ストレス、働き方、健康格差など、日常生活に関わるさまざまな健康課題を取り上げ、その背景にある社会的な要因にも目を向ける。多様な健康課題があることを知り、自分や周囲の健康について考える力を養うとともに、身体的・社会的側面を中心としたヘルスケアの視点との関連性を理解する。</p>	講義20時間 演習10時間
	バイオメカニクス		<p>本講義科目では、生体の力学的特性と解剖学的構造に関する基礎知識を習得することを目的とする。骨や筋肉の構造を学び、重心や力のモーメントなどの力学的概念を理解し、人体の動作がどのように成立しているかを考察する。また、日常生活動作や基本的な運動におけるバイオメカニクスの視点を取り入れ、解剖学と力学の関係性を理解する力を養う。さらに、身体重心や関節モーメントといった基本的概念を図で表現できるようになることを目標とする。ヘルスケアの視点から、転倒予防や運動機能の維持といった身体的健康課題との関連性にも触れ、身体の動きを科学的に捉える視点を身につける。</p>	
地域づくり	地域づくり入門	○	<p>本講義科目では、地域づくりに関する基本的な視点を学び、持続可能で共生的な地域社会の実現に向けた社会課題を理解することを目的とする。都市化や地域の多様性、国際協力、市民参加、交通、自然環境など多様な視点から地域が抱える課題の構造を捉え、地域づくりの基礎的な考え方を学ぶ。</p> <p>（共同・オムニバス方式/全14回） (⑥ 中山智晴・⑧ 甲斐田きよみ・⑯ 岩館豊・⑪ 仲田知弘・⑯ 井上絵理・⑯ 嶋崎東子/2回) (共同) 第1回のオリエンテーションで各分野を紹介し、最終回で学びを総括する。 (⑯ 岩館豊/2回) 都市の空間的、社会的構造と人々の生活について考察する。 (⑯ 嶋崎東子/1回) 多様なバックグラウンドを持つ人々の共生について検討する。 (⑧ 甲斐田きよみ/2回) 国際協力の視点から、発展途上国の地域づくりについて考察する。 (⑯ 井上絵理/3回) デジタル技術の社会参加への影響やシビックテックの活用を考察する。 (⑪ 仲田知弘/2回) 交通シミュレーションから見る都市の交通問題について考察する。 (⑥ 中山智晴/2回) 都市と自然の共生、人と人、人と自然が共生するまちづくりについて考察する。</p>	オムニバス方式・ 共同（一部）
	都市論		<p>本講義科目では、都市の成り立ちを学び、現代都市が抱える課題とその背景に関する基礎知識を習得することを目的とする。社会学、地理学、人類学、都市計画学、建築学などが複合的に関係する都市論を理解し、歴史的視点とともに都市の発展や変遷を考察する。これらを通じて、都市論の基本概念を説明し、現代都市の課題を社会システムとの関連で分析し、現代アーバニズムや都市デザインの視点から社会課題を把握できるようになることを目標とする。</p>	講義15時間 演習15時間
	地域政策論		<p>本講義科目では、少子高齢化と人口減少が進む社会において求められる地域政策の基本概念と歴史的背景を学ぶことを目的とする。国内外の具体的な政策事例を通じて、その効果と課題を分析し、過疎化や地域格差への対応、ジェンダーの視点を取り入れた政策立案の意義を考察する。さらに、都市計画、地方創生、地域経済の活性化、環境保護、住民参加などのテーマについて議論を深め、地域特性に応じた政策のあり方を検討できることを目標とする。</p>	講義26時間 演習4時間

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
ヒューマン・ドメイン科目	共生まちづくり論		本講義科目では、共生を目指したまちづくりのあり方について多角的に検討することを目的とする。バリアフリー化が進む中、子ども、高齢者、ハンディキャップ、外国人、性的マイノリティなど多様な視点から、実際の住みやすさや生活のしやすさを考察する。まちづくりに必要な視点を学び、法制度や日本の取り組み、海外の事例を通じて現状と課題を分析する。これらを通じて、まちづくりの歴史と現状について理解を深め、共生社会の実現に向けた「まちづくり」の課題を考察できることを目標とする。	講義20時間 演習10時間
	ジェンダーと開発研究		本講義科目では、開発におけるジェンダー視点の重要性を理解し、主要な開発課題におけるジェンダー課題を学ぶことを目的とする。具体的には、開発協力の歴史的展開の中でジェンダー課題がどのように取り組まれてきたかを学び、ジェンダー平等がSDGsの目標5に位置付けられているだけでなく、他の目標においても必要とされることを関連するSDGsとともに理解する。また、途上国における開発課題とジェンダー格差の関係を説明できるようになるとともに、ジェンダー不平等に基づく課題の解決策について、これまでの取り組みを踏まえて考察する力を養うことを目指とする。	講義26時間 演習4時間
	家族生活論		本講義科目では、現代社会における家族の変化や多様化について理解を深め、家族の役割や機能を学ぶことを目的とする。非婚化・晩婚化、家族規模の縮小といった現状を踏まえ、現代の家族がどのように形成され、生活を営んでいるのかを学ぶ。また、単身世帯や非婚・事実婚、血縁にとらわれない共同生活など、さまざまな家族や生活の形を紹介し、それぞれの特徴や課題を考察する。さらに、母子世帯や高齢者の生活、貧困といった社会的な問題が家族にどのような影響を及ぼしているかを学び、家族を支える仕組みや支援のあり方について考察できることを目標とする。	講義20時間 演習10時間
	国際協力論		本講義科目では、発展途上国が直面する貧困、ジェンダー格差、教育・医療の不足、インフラの欠如、農業開発、紛争や難民問題などのグローバル課題について学び、原因を分析することを通じて、国際協力の必要性を理解することを目的とする。具体的な事例を通じて、これらの課題の背景や要因を分析し、国際社会の支援のあり方を考察する。さらに、持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けた取り組みを学び、残された課題を理解し、国際協力の現状と今後の展望について説明できる力を養うことを目指とする。	講義26時間 演習4時間
	アジア地域研究		本講義科目では、アジア地域（東南アジア・南アジア）に焦点をあて、その文化、歴史的・政治的・経済的特徴や課題、日本とのつながりを理解することを目的とする。アジアの現状と課題、可能性について歴史的背景や国際関係を踏まえて分析し、説明できる力を養う。さらに、国際協力やソーシャル・ビジネスの事例を学び、特にデータサイエンスを活用した取り組みを通じて、アジア地域における社会課題の解決への応用を考察する。これらを通じて、アジアの発展と国際協力の基礎知識を習得し、データサイエンスの活用事例を説明できることを目指とする。	講義22時間 演習8時間
	アフリカ地域研究		本講義科目では、アフリカ地域に焦点をあて、その文化、歴史的・政治的・経済的特徴や課題、日本とのつながりを理解することを目的とする。アフリカの現状と課題、可能性について歴史的背景や国際関係を踏まえて分析し、説明できる力を養う。さらに、国際協力やソーシャル・ビジネスの事例を学び、特にデータサイエンスを活用した取り組みを通じて、アフリカ地域における社会課題の解決への応用を考察する。これらを通じて、アフリカの発展と国際協力の基礎知識を習得し、データサイエンスの活用事例を説明できることを目指とする。	講義22時間 演習8時間
	自然環境保護論		本講義科目では、地球規模の環境問題や生物多様性の危機を理解し、人と自然の共生に向けた基礎的な知識と視点を身につけることを目的とする。地球環境問題の全体像から、生物多様性や生態系に関する課題、資源問題等の個別の課題を学び、環境政策や実際の国際的な取組について理解を深める。討議やグループワークを通じて、多角的な視点から自然環境保護の意義を深く学び、自然環境に関する課題を理解できることを目標とする。	講義20時間 演習10時間
	環境ビジネス論		本講義科目では、地域資源・課題の発掘方法、課題解決のための分析手順と方法を学び、地域の環境配慮型ビジネスについて学ぶことを目的とする。地域資源を活用しながら「新たな産業の創造」、「雇用創出」を進め、最終的には地域の自然環境の保全にも寄与することができるこれらの環境ビジネスについて理解を深める。最終的にはローカルSDGsビジネスを実際に企画する演習を通して、環境ビジネスの意義や可能性について論理的に説明できることを目標とする。	講義20時間 演習10時間

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
ヒューマン・ドメイン科目	異文化間コミュニケーション	○	<p>本講義科目では、異文化間コミュニケーションに関する基本的な視点を学び、文化的多様性がもたらす社会課題とその背景を理解することを目的とする。メディア、宗教、教育、労働などの具体的な事例を通じて、多様な観点から異文化との関わりを学び、文化的背景と社会的構造の相互関係を捉える力を養う。</p> <p>(共同・オムニバス方式/全14回) (⑤ 恒吉僚子・⑩ 登丸あすか・⑬ 貫井万里・⑨ 小山治・⑯ 館奈保子/2回) (共同) 第1回のオリエンテーションで各分野を紹介し、最終回で学びを総括する。 (⑯ 館奈保子/2回) 言語/非言語的コミュニケーション、価値観の多様性について概観する。 (⑩ 登丸あすか/3回) グローバル化社会におけるメディア、情報化社会についてメディアアリテラシーやソーシャルメディアの観点から解説する。 (⑬ 貫井万里/3回) 文化や価値観について、宗教や食文化の違いから考察する。また、地域における異文化コミュニティについて紹介する。 (⑤ 恒吉僚子/2回) 國際比較の視点から、日本と諸外国の教育や社会の課題を考察する。 (⑨ 小山治/2回) 大学教育とキャリア形成の関係を考察し、職業選択について文化的側面から考察する。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
	異文化間コミュニケーション		本講義科目では、異文化間コミュニケーションの基本的な概念や理論を学びながら、文化や価値観の違いが引き起こす誤解や摩擦について理解することを目的とする。言語的・非言語的表現、カルチャーショックとその適応プロセス、宗教や教育、労働などの具体的なテーマを通じて、多様な文化的背景を理解する視点を養う。ディスカッションを通して、自らの経験と照らし合わせながら異文化への理解を深める。	講義20時間 演習10時間
	ソーシャルメディア論		本講義科目では、情報の受発信者として責任を持ち、ソーシャルメディアを適切に活用するためのリテラシーを高めることを目的とする。SNS、動画配信サービス、ブログなどの発展過程を学び、社会や生活への影響を理解するとともに、発生する問題とその対策を考察する。さらに、ソーシャルメディアの情報の特性を学び、主体的かつ批判的に活用するための知識や技術を習得する。これらを通じて、ソーシャルメディアの発展過程や諸問題を説明し、適切な対策を考え、情報の発信者としての基礎知識を身につけることを目標とする。	講義24時間 演習6時間
	宗教の世界史		本講義科目では、キリスト教、仏教、神道を中心に、世界各地の宗教の成り立ちや特徴を学び、宗教が文化や社会や人の価値観に与える影響を理解することを目的とする。特に、宗教を通して人々の価値観や行動様式の違いを捉え、異文化理解の視点を養うことを目指す。各講義では、宗教と政治・経済、宗教とビジネス、宗教と教育の関係などにも触れながら、宗教が関わる現代社会の課題について多角的に考察し、宗教を軸とした社会の課題を把握できるようになることを目標とする。	講義25時間 演習5時間
	比較文化論		本講義科目では、文化の中でも世界の「食文化」に注目し、比較を通して異文化理解を深めるとともに、日本の食文化・食生活のあり方を考えることを目的とする。人類の食の歴史をたどり、地域の気候や風土に応じた食文化の発展を学ぶ。主食や動物性食品、豆類の食習慣、宗教による食のタブー、大航海時代以降の食文化の変化、嗜好品の広がり、日本食の歴史、ファーストフードの普及などを取り上げる。これらを通じて、世界の食文化の基礎知識を修得し、日本と諸地域の食文化の違いを説明できることを目標とする。	講義25時間 演習5時間
	教育社会学概論		本講義科目では、日本の教育（小学校～高等学校）が直面する課題、特にグローバル化に伴う教育の変化に焦点をあて、多角的に考察することを目的とする。教育社会学的な視点から、日本の教育の現状をデータと理論に基づいて分析し、映像を活用した調査手法を学ぶ。さらに、議論やフィールドノート作成を通じて課題発見と解決の視点を養い、ICTを活用した電子教材の作成を実践する。これらを通じて、教育課題を客観的に捉え、学校DXやICT活用の可能性を考察しながら、自身の関り方を考えることができるようになることを目標とする。	講義20時間 演習10時間

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
ヒューマン・ドメイン科目	異文化間コミュニケーション	比較教育学	本講義科目では、日本の教育課題を国際的な視点で理解し、諸外国の政策や状況と比較しながら解決の道筋を学ぶことを目的とする。海外の研究者や学生、国際開発コンサルティング会社のゲスト講義をオンラインで実施し、開発途上国の教育現場を遠隔で学習する。さらに、グループ討議や海外学生とのオンライン・ブレーンストーミングを通じて多角的な視点を養い、教育課題についての考察や成果を講義用HP上で国際発信する。これらを通じて、異文化間のコミュニケーション能力や協働スキルを身につけながら、日本の教育課題の位置づけを考察できることを目標とする。	講義24時間 演習6時間
	メディア概論		本講義科目では、メディア研究の基本理論と発展の歴史を学び、現代メディア社会の課題を多角的に考察する力を養うことを目的とする。テレビ、ラジオ、新聞からインターネットやSNSへと広がるメディアの変遷を振り返り、スマスマメディア時代の理論やオーディエンス研究を学ぶ。さらに、デジタルメディアにおけるジャーナリズムの役割やSNS上の誹謗中傷問題を批判的に検討し、民主主義を支えるメディアの在り方を考察する。これらを通じて、メディアが社会で果たすべき役割を提言できるようになることを目標とする。	
	メディアアリテラシー		本講義科目では、メディアアリテラシーの基本的な考え方を学び、実践的に身につけることを目的とする。情報があふれる現代社会においては、メディアの影響を正しく理解し、必要な情報を判断・発信する力が求められる。本授業では、ワークショップ形式でメディアの分析や制作を行い、メディアが伝えるメッセージや価値観を批判的に考察する。これらを通じて、自分とメディア、社会との関係をクリティカルに捉え直し、メディア社会の問題を説明できるようになることを目標とする。	講義20時間 演習10時間
プロジェクトマネジメント科目	プロジェクトマネジメント	未来体験プログラム	本講義科目は、地方自治体や企業の社会課題解決プロセスを、ICT・データ活用の視点から学ぶことを目的とするPBL型授業である。講演、体験、見学、ディスカッションを通じ実例を学び、グループ発表で企業からフィードバックを受ける。これにより、学習方向を明確にし、将来への意欲を高めることを目標とする。 (オムニバス方式/全14回) (⑭ 飯田開・⑯ 井上絵理/5回) (共同) 第2回・3回では、NTT e-city Laboでの施設見学・実習を行い、データサイエンスやAIの社会での活用事例を学ぶ。第12回・13回では、講義内で紹介された企業の取組をもとにディスカッションを行い、第14回にグループ発表を行う。 (⑭ 飯田開/7回) 第1回オリエンテーション担当。第4回・5回・8回～11回で、地理情報システムや業務のデジタル化、健康管理の事例を専門とする企業等を招いて紹介する。 (⑯ 井上絵理/2回) 第6回・7回で、NPO法人を招き、地域の社会課題解決の取組を紹介する。	オムニバス方式・ 共同 (一部) 講義20時間 実習4時間 演習6時間
	共生社会フィールドスタディーズ		本実習科目は、企業、地方自治体、NPOなど多様な実習先での職場体験を通じて、社会課題を把握し、その解決に向けたデータ活用の可能性や必要性を学ぶことを目的とするPBL型授業である。1か月間の実習(職業体験)を通じて実社会の課題に触れながら、自身の学びを現場で活用する経験を積み、データサイエンスの視点から課題解決を考察する力を養う。これらを通じて、社会課題の背景や要因を分析し、データ活用の必要性を説明できる力を身につける。さらに、実習先での経験を通じて、課題発見力、コミュニケーション能力、チームワークを養い、自己を客観視しながら今後の成長に向けた目標を設定できることを目標とする。	実習160時間 講義30時間

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
プロジェクトマネジメント科目	プロジェクトマネジメント概論	○	<p>本講義科目では、プロジェクトの概念を理解し、プロジェクトの進め方とマネジメントの基本的な知識を学習することを目的とする。具体的には、プロジェクトマネジメントの基礎、作業指示書やWBS（作業分解構造）の作成、計画の立案、進捗管理などのスキルを身につける。仮想プロジェクトを通じて、実際のプロジェクトで役立つ一連のマネジメント手法を習得することを目標とする。</p> <p>（オムニバス方式/全14回） (⑥ 中山 智晴/6回) 第1回オリエンテーションと第2回で、プロジェクトマネジメントについての全体概要を解説する。第5回-6回ではWBSやスケジュールの考え方、スケジュール管理について解説する。第13回ではデータサイエンスに関連したプロジェクトの実例を紹介し、第14回はまとめとして学生のプレゼンテーションへの講評を行う。</p> <p>（26 植村 哲司/8回） 第3回-4回で、目標の設定～計画（QCD）について解説する。第7回～12回では計画の立案、リスク管理を学ぶと同時に仮想プロジェクトの立ち上げ、実行・監視等に至る一連の流れを学習する。</p>	オムニバス方式 講義20時間 演習10時間
	プロジェクトマネジメント演習	○	本演習科目は、社会課題の把握から解決策の立案・試行までのプロセスを学び、実践的なプロジェクトマネジメントのスキルを身につけることを目的とするPBL型授業である。地方自治体、企業、NPOなどから提供される課題に対し、グループで①課題の分析、②データ活用、③解決策の発送と試行を行なながら主体的に学ぶ。ケーススタディやフィールド学習を通じて社会の実情を理解し、実践的な解決策を考察する。成果は中間報告会や最終報告会で発表し、提案内容を報告書にまとめる。これらの活動を通じて、論理的思考力、データ活用スキル、チームマネジメント能力を養うことを目標とする。	
経営学基礎	経営学入門	○	本講義科目では、経営学における基礎的な概念・知識を身に付けることを目的とする。企業経営の要諦として挙げられる「人・モノ・金・情報」を軸に授業を行い、リーダーシップ、人事評価、マーケティング戦略、企業会計等について、組織の社会的責任の観点も踏まえて講義を行う。この科目は、2年次後期以降に履修するプロジェクトマネジメント科目、経営学基礎科目への橋渡し的な位置づけとする。	
	事業戦略論		本講義科目では、事業戦略に関する理論を学び、ケーススタディを通じて企業が実行すべき事業戦略を考察することを目的とする。グローバル化が進むビジネス環境において競争優位を確立する戦略の在り方を学び、ビジネスで頻繁に使用される概念やキーワードについて理解を深める。またケーススタディで示された論点をグループで議論することで、グループワークを活用する力を養い、社会人基礎力を身につける。これらを通して、ビジネス概念や用語を理解し、自分の言葉で説明できるようになることを目標とする。	講義25時間 演習5時間
	マーケティング概論		本講義科目では、マーケティングの基礎知識を習得し、企業のケーススタディを通じてマーケティング戦略が業績に与える影響を学ぶ。身近な企業や商品を題材に、顧客セグメンテーション、ターゲット設定、ポジショニング、製品・価格・チャネル政策などの基本概念を理解し、企業の差別化戦略を考察する。これらを通じて、マーケティング戦略の立案・実行のポイントを把握し、マーケティング戦略が企業の差別化にどう繋がっているのかを、自分の言葉で説明できるようになることを目標とする。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
プロジェクトマネジメント科目	企業会計 I		本講義科目では、企業の経済活動を理解・分析する手段としての企業会計の基礎を学び、財務諸表から企業活動を読み解く力を身につけることを目的とする。財務諸表は、企業の信用度や収益力を評価する重要な指標であり、ビジネス活動において不可欠な知識となる。本授業では、貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書の基本構造を学び、財務データを活用した簡単な財務分析を行う。これらを通じて、財務諸表の内容を説明し、基礎的な財務分析を実践できるようになることを目標とする。	講義25時間 演習5時間
	企業会計 II		本講義科目では、企業の経済活動を理解する手段としての企業会計の基礎を学び、財務諸表を読み解くだけでなく、企業分析レポートの作成方法を学ぶことを目的とする。財務諸表は、企業の信用度や収益力を評価する重要な指標であり、ビジネス活動に不可欠な知識となる。本授業では、貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書の内容を理解し、それを第三者に分かりやすく説明する力を養う。さらに、収益性・成長性・安全性分析や損益分岐点分析を活用し、簡単な企業分析レポートを作成できるようになることを目標とする。	講義15時間 演習15時間
	DXマネジメント概論		本講義科目では、DX（デジタルトランスフォーメーション）の基礎を学び、ビジネスや社会での活用方法を理解することを目的とする。前半では、DXの基本概念やIT・デジタル技術の基礎知識を学び、企業や自治体のDX・GXの取り組みを紹介する。後半では、人口問題やデジタル田園都市構想などを題材に、企業データを活用した演習を行い、データを基にした意思決定の考え方を学ぶ。これらを通じて、DXの仕組みや意義を理解し、身近な課題に応用する力を養うこと目標とする。	講義20時間 演習10時間
実践科目	ドメインとデータ解析	ドメインとデータ解析演習 A	本演習科目では、「ヘルスケア」「異文化間コミュニケーション」ドメインにおける社会課題を題材に、テキストデータの分析手法としてトピックモデルを理解し、実践的に活用できる力を養うことを目的とする。新聞記事、文学作品、議会議事録、ハイオインフォマティクス、ソーシャルメディアのヘイトスピーチ検出など、多様なテキストデータを対象に、トピックの抽出と活用をグループで体験する。特に、LDA（潜在的ディリクレ配分法）を中心に、ExcelやPythonを活用し、トピックモデルの実践的な適用方法を理解することを目標とする。また、トピックモデルの評価やドメイン知識の活用についても触れる。	演習20時間 講義10時間
		ドメインとデータ解析演習 B	本演習科目では、「ヘルスケア」のドメインにおける社会課題を題材に、画像解析の手法を学ぶことを目的とする。人や動植物、幾何学的紋様などの画像判定が求められる場面を想定し、画像認識タスクのための深層学習手法を演習する。画像処理の基本としてOpenCVによる画像認識を学び、さらに、画像分類や物体検出のためのニューラルネットワーク、主成分分析、物体検出法について理解を深める。最後に、畳み込みニューラルネットワーク（CNN）の実装を体験し、実践的な画像解析スキルを修得することを目標とする。	演習20時間 講義10時間
		ドメインとデータ解析演習 C	本演習科目では、「ヘルスケア」「異文化間コミュニケーション」のドメインにおける社会課題を題材に、音声解析の手法を理解することを目的とする。音声認識や音声生成の需要が高まる中、自動音声認識の基礎を理解し、実践的な解析手法を習得する。音声データの特性や計算的の処理、エンコーダーデコーダーモデル、損失関数、単語誤り率評価メトリックを学び、音声認識システムの仕組みを演習する。最後に、公開されている音声認識APIを活用してシステムを構築し、実践的なスキルを身につけることを目標とする。	演習20時間 講義10時間
		ドメインとデータ解析演習 D	本演習科目では、「ヘルスケア」「地域づくり」「異文化間コミュニケーション」の各ドメインにおいて、言語処理システムの活用が求められる社会課題を理解し、LLM（大規模言語モデル）の基礎的な分析手法を理解することを目的とする。単語ベクトルや単語埋め込みを利用した感情分析の基本を確認し、実際のLLMの活用について演習を行う。さらに、Transformerを用いたテキスト分類や言語モデルリング、テキスト類似度の評価を学び、PEFTを用いたLLMのファインチューニングを体験することで、言語処理技術の実践的な理解を深めることを目標とする。	演習20時間 講義10時間
		ドメインとデータ解析演習 E	本演習科目では、「地域づくり」ドメインにおける社会課題の解決に不可欠な地理情報システム（GIS）の操作と地図表現を学ぶことを目的とする。GISを活用することで、地域の空間情報を効率的に把握し、防災や気候変動、街づくりをはじめとする多様な社会課題への応用力を養う。時空間データの収集、前処理、解析、可視化を一貫して実践し、地球環境データや社会データを対象に空間分析手法を適用する。さらに、GISを用いた課題に基づく総合的なデータ解析と可視化を行い、意思決定に活かすスキルを身につけることを目標とする。	演習15時間 講義15時間

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
実践科目	ドメインとデータ解析	ドメインとデータ解析演習 F	本演習科目では、「ヘルスケア」ドメインにおける社会課題の解決に向け、IoT技術を活用したデータ収集と解析手法を学ぶことを目的とする。活動量、心拍数、皮膚温度などの生体情報や、気温・湿度・CO ₂ 濃度といった環境データ、気象データの収集方法を学び、各種センサーやIoTデバイスの活用を実践する。さらに、得られたデータを適切に分析し、ヘルスケア分野の課題解決に向けた活用方法を提案できる力を養うことを目標とする。	演習20時間 講義10時間
		ドメインとデータ解析演習 G	本演習科目では、「地域づくり」ドメインにおける社会課題の解決に重要なIoT技術の活用を学ぶことを目的とする。環境データや人流データの収集・解析を通じ、スマートシティ、防災、交通管理、エネルギー効率化などのまちづくりへの応用を理解し、データの可視化・分析スキルを習得する。実際のデータを用いた演習やフィールドワークを通じて、IoTの活用方法を探求し、「地域づくり」ドメインにおける実務的な課題解決能力を養うことを目標とする。	演習15時間 講義15時間
ゼミナール	ゼミナール I	○	本演習科目では、指導教員の専門分野を中心に、社会課題を明確化し、研究の流れを理解することを目的とする。ゼミ活動を通じて研究テーマの設定手順、調査方法について学び、実際に文献調査やデータ収集を行い社会課題を明確化する手順を身につける。さらに、学生・教員との議論や発表を重ねることで、批判的思考力やプレゼンテーション能力を高めることを目標とする。 【ヘルスケアドメイン】 (③ 飯島史朗) 様々な生体情報に基づいた健康管理 (④ 神作一実) 発達期の作業療法、摂食嚥下リハビリテーション (⑫ 長野祐一郎) アフェクティブコンピューティング (⑭ 飯田開) 身体データと健康管理 【地域づくりドメイン】 (① 浅野俊幸) 街と空間に基づいた人の行動解析・人流シミュレーション (⑧ 甲斐田きよみ) 国際協力とジェンダー平等 (⑪ 仲田知弘) 社会経済シミュレーション、AIや統計学を用いたデータサイエンス、学習システムと教育工学 (⑯ 岩館豊) アーバニズムと都市コモンズについてのハイブリッドエスノグラフィー 【異文化間コミュニケーションドメイン】 (② 穴太克則) 問題解決への多変量解析・確率モデル・機械学習とその応用 (⑤ 恒吉僚子) 多文化共生社会 (⑦ 渡部吉昭) 社会課題とマーケティング (⑨ 小山治) 大学教育の職業的レリバанс (意義・有効性) (⑩ 登丸あすか) デジタルメディアとメディアリテラシー (⑬ 貢井万里) 異文化理解	
			本演習科目では、ゼミナール I で習得した知識やスキルを活かし、専門研究を深化させることを目的とする。学生は、選定した研究テーマに沿ってデータの収集・分析を行い、課題解決策の提案に向けた検討を進める。研究成果をゼミ内で発表し、フィードバックを受けながら内容を発展させる。最終的に、論理的に整理した成果を学術的な形式でまとめるすることを目標とする。 【ヘルスケアドメイン】 (③ 飯島史朗) 様々な生体情報に基づいた健康管理 (④ 神作一実) 発達期の作業療法、摂食嚥下リハビリテーション (⑫ 長野祐一郎) アフェクティブコンピューティング (⑭ 飯田開) 身体データと健康管理 【地域づくりドメイン】 (① 浅野俊幸) 街と空間に基づいた人の行動解析・人流シミュレーション (⑧ 甲斐田きよみ) 国際協力とジェンダー平等 (⑪ 仲田知弘) 社会経済シミュレーション、AIや統計学を用いたデータサイエンス、学習システムと教育工学 (⑯ 岩館豊) アーバニズムと都市コモンズについてのハイブリッドエスノグラフィー 【異文化間コミュニケーションドメイン】 (② 穴太克則) 問題解決への多変量解析・確率モデル・機械学習とその応用 (⑤ 恒吉僚子) 多文化共生社会 (⑦ 渡部吉昭) 社会課題とマーケティング (⑨ 小山治) 大学教育の職業的レリバанс (意義・有効性) (⑩ 登丸あすか) デジタルメディアとメディアリテラシー (⑬ 貢井万里) 異文化理解	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
実践科目	卒業研究		<p>本演習科目では、学生が自ら設定した研究テーマを深く掘り下げる基盤を築くことを目的とする。指導教員のサポートを受けながら、研究計画の立案、文献調査、データ収集・分析を進める。ゼミ内での発表やフィードバックを通じて、研究の方向性を洗練させ、論理的な考察力や効果的なコミュニケーション能力を養う。最終的に、卒業研究Ⅱでの成果報告や論文作成につなげることを目標とする。</p> <p>【ヘルスケアドメイン】 (③ 飯島史朗) 様々な生体情報に基づいた健康管理 (④ 神作一実) 発達期の作業療法、摂食嚥下リハビリテーション (⑫ 長野祐一郎) アフェクティブコンピューティング (⑭ 飯田開) 身体データと健康管理</p> <p>【地域づくりドメイン】 (① 浅野俊幸) 街と空間に基づいた人の行動解析・人流シミュレーション (⑧ 甲斐田きよみ) 國際協力とジェンダー平等 (⑪ 仲田知弘) 社会経済シミュレーション、AIや統計学を用いたデータサイエンス、学習システムと教育工学 (⑯ 岩館豊) アーバニズムと都市コモンズについてのハイブリッドエスノグラフィー</p> <p>【異文化間コミュニケーションドメイン】 (② 穴太克則) 問題解決への多変量解析・確率モデル・機械学習とその応用 (⑤ 恒吉僚子) 多文化共生社会 (⑦ 渡部吉昭) 社会課題とマーケティング (⑨ 小山治) 大学教育の職業的レリバンス（意義・有効性） (⑩ 登丸あすか) デジタルメディアとメディアリテラシー (⑬ 貢井万里) 異文化理解</p>	
	卒業研究Ⅰ	○	<p>本演習科目では、卒業研究Ⅰで築いた基盤を基に、最終的な研究成果をまとめることを目的とする。指導教員の助言を受けながら、研究の課題解決に向けた具体的な提案を卒業研究としてまとめる。得られたデータや結果を分析し、論理的かつ学術的な形式で卒業論文または卒業制作を完成させる。授業内での発表やフィードバックを通じて研究内容をブラッシュアップし、最終的には報告会で成果を発表し、フィードバックを受けて最終成果物としてまとめることを目標とする。</p> <p>【ヘルスケアドメイン】 (③ 飯島史朗) 様々な生体情報に基づいた健康管理 (④ 神作一実) 発達期の作業療法、摂食嚥下リハビリテーション (⑫ 長野祐一郎) アフェクティブコンピューティング (⑭ 飯田開) 身体データと健康管理</p> <p>【地域づくりドメイン】 (① 浅野俊幸) 街と空間に基づいた人の行動解析・人流シミュレーション (⑧ 甲斐田きよみ) 國際協力とジェンダー平等 (⑪ 仲田知弘) 社会経済シミュレーション、AIや統計学を用いたデータサイエンス、学習システムと教育工学 (⑯ 岩館豊) アーバニズムと都市コモンズについてのハイブリッドエスノグラフィー</p> <p>【異文化間コミュニケーションドメイン】 (② 穴太克則) 問題解決への多変量解析・確率モデル・機械学習とその応用 (⑤ 恒吉僚子) 多文化共生社会 (⑦ 渡部吉昭) 社会課題とマーケティング (⑨ 小山治) 大学教育の職業的レリバンス（意義・有効性） (⑩ 登丸あすか) デジタルメディアとメディアリテラシー (⑬ 貢井万里) 異文化理解</p>	
	卒業研究Ⅱ	○		

学校法人文京学院 設置認可等に関わる組織の移行表

令和7年度	入学定員	編入学定員	収容定員	令和8年度	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
文京学院大学				文京学院大学				
外国語学部				外国語学部				
英語コミュニケーション学科	180	-	720	英語コミュニケーション学科	180	-	720	
経営学部				経営学部				
経営コミュニケーション学科	130	-	520	経営コミュニケーション学科	130	-	520	
マーケティング・デザイン学科	130	-	520	マーケティング・デザイン学科	130	-	520	
人間学部				人間学部				
児童発達学科	130	-	520	児童発達学科	130	-	520	
人間福祉学科	110	-	440	人間福祉学科	110	-	440	
心理学科	100	-	400	心理学科	100	-	400	
保健医療技術学部				保健医療技術学部				
理学療法学科	80	-	320	理学療法学科	80	-	320	
作業療法学科	40	-	160	作業療法学科	40	-	160	
臨床検査学科	80	-	320	臨床検査学科	80	-	320	
看護学科	100	-	400	看護学科	100	-	400	
計	1,080		4,320	ヒューマン・データサイエンス学部				学部の設置
				ヒューマン・データサイエンス学科	110	-	440	(認可申請)
				計	1,190		4,760	
文京学院大学大学院				文京学院大学大学院				
外国語学研究科				外国語学研究科				
英語コミュニケーション専攻(M)	10	-	20	英語コミュニケーション専攻(M)	10	-	20	
経営学研究科				経営学専攻(M)	30	-	60	
経営学専攻(M)	30	-	60	人間学研究科				
人間学研究科				人間学専攻(M)	10	-	20	
人間学専攻(M)	10	-	20	心理学専攻(M)	20	-	40	
心理学専攻(M)	20	-	40	保健医療科学研究科				
保健医療科学研究科				保健医療科学専攻(M)	20	-	40	
保健医療科学専攻(M)	20	-	40	看護学研究科				
看護学研究科				看護学専攻(M)	10	-	20	
看護学専攻(M)	10	-	20	専門職大学院				
専門職大学院				福祉医療マネジメント研究科				
福祉医療マネジメント専攻(P)	50	-	100	福祉医療マネジメント専攻(P)	50	-	100	
計	150		300	計	150		300	